授業科目	看護形態機能学	担当教員	安藤二充香☆	単位数	1	時期	1年次 9月～
				時間数	15		

目的：解剖生理学で学んだ知識を、生活者としての人間にあてはめ、日常生活行動の視点で、人間の体のつくりや動きを理解する。

目標：1）どのような体の仕組みを使って、日常生活を行っているのかを説明できる。

2）体の仕組みが障害されたとき、生きていること、日常生活行動にどう影響するのかを考えることができる。

回数	学習課題	内容	方法	担当教員
1	人体構造のイメージ化１	臓器のペインティング (頭部、頚部～呼吸器、心臓から消化器、腎泌尿器・生殖器、骨筋肉)	講義	安藤
2	人体構造のイメージ化２	臓器ペインティング発表会	講義	
3	何のための生活行動か 日常生活行動　食べる１	内部環境の恒常性・物質の流通・調節機構 食べることに必要な機能 食欲・食行動	講義	
4	日常生活行動　食べる２	嚥下(咀嚼・飲み込み) 消化・吸収、便を作る・便を出す	講義	
5	日常生活と体の仕組み１	動く・息をする・トイレに行く・お風呂に入る・話す聞く１　(グループワーク)	講義	
6	日常生活と体の仕組み２	動く・息をする・トイレに行く・お風呂に入る・話す聞く２　(資料作成、発表準備)	講義	
7	日常生活と体の仕組み３ (３h)	動く・息をする・トイレに行く・お風呂に入る・話す聞く３　(発表会)	講義	

評価方法	記録物、小テスト、レポート、グループワークなどを総合的に評価
参考文献と資料	テキスト：看護形態機能学　生活行動からみるからだ　(日本看護協会出版会) 入門人体解剖学　(南江堂)
事前準備や受講要件等	解剖学・生理学の復習をして臨むこと
☆担当教員の実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	病理学Ⅰ	担当教員	外部講師☆ ①小澤　幸泰 ②杉田竜太郎 ③岩井　雅則 ④市川　元司 ⑤杉山　燈人	単位数	1	時期	1年次 5月～
				時間数	30		

目的：疾病の病因・病変の特徴および系統別疾患の病態・治療・検査について学ぶ。

目標：1）疾病の分類と成り立ちが理解できる。

2）各疾患に必要な検査・治療が理解できる。

3）各系統別疾患に関する病態・治療・検査・予後を理解し、看護展開に生かすことができる。

回数	学習課題	内　容	方　法	担当教員
1	病理学総論１	病理学で学ぶこと　細胞・組織の損傷と修復，炎症	講義	小澤
2	病理学総論２	免疫，移植と再生医療	講義	
3	病理学総論３	感染症	講義	
4	病理学総論４	循環障害　・　代謝障害	講義	杉田
5	病理学総論５	老化と死　・　先天異常と遺伝性疾患	講義	
6	病理学総論６	腫瘍	講義	岩井
7	病理学総論７	腫瘍　生活習慣と環境因子による生体の障害	講義	
8	呼吸器内科疾患１	呼吸器の構造と機能 症状とその病態生理１	講義	市川
9	呼吸器内科疾患２	症状とその病態生理２	講義	
10	呼吸器内科疾患３	検査・治療・処置	講義	
11	呼吸器内科疾患４	呼吸器感染症１　COVID-19	講義	
12	呼吸器内科疾患５	呼吸器感染症２　　気管支喘息　肺結核	講義	
13	呼吸器内科疾患６	慢性閉塞性肺疾患　肺高血圧　肺塞栓症	講義	
14	呼吸器内科疾患７	肺腫瘍　気胸	講義	
15	呼吸器外科疾患	肺の外科	講義	杉山

評価方法	筆記試験（１時間別日に実施します）
参考文献と資料	テキスト： 回数1～7　病理学　疾病の成り立ちと回復の促進（１）（医学書院） 回数8～14 呼吸器　成人看護学(2)（医学書院） 回数15　　臨床外科看護総論（医学書院） 臨床外科看護各論（医学書院）
事前準備や受講要件等	
☆担当教員の実務経験	①②③④⑤医師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	病理学Ⅱ	担当教員	外部講師☆ ①日比野　剛 ②八神　　啓 ③高津　哲郎	単位数	1	時期	1年次 7月～
				時間数	30		

目的：疾病の病因・病変の特徴および系統別疾患の病態・治療・検査について学ぶ。

目標：1）疾病の分類と成り立ちが理解できる。

2）各疾患に必要な検査・治療が理解できる。

3）各系統別疾患に関する病態・治療・検査・予後を理解し、看護展開に生かすことができる。

回数	学習課題	内　　容	方　　法	担当教員
1	循環器疾患１	循環器の構造と機能 症状とその病態生理	講義	日比野
2	循環器疾患２	虚血性心疾患	講義	
3	循環器疾患３	心不全	講義	
4	循環器疾患４	弁膜症、心筋症、心筋炎、先天性心疾患	講義	
5	循環器疾患５	不整脈	講義	
6	循環器疾患６	大動脈疾患、静脈疾患	講義	
7	心臓血管外科疾患１	虚血性心疾患　動脈閉塞及び血流障害	講義	八神
8	心臓血管外科疾患２	心臓弁膜症	講義	
9	心臓血管外科疾患３	動脈瘤　静脈の血流障害	講義	
10	運動器疾患１	運動器の構造と機能	講義	高津
11	運動器疾患２	症状とその病態生理	講義	
12	運動器疾患３	検査・治療・処置	講義	
13	運動器疾患４	骨折　脱臼　骨粗鬆症	講義	
14	運動器疾患５	腫瘍　変形性関節症	講義	
15	運動器疾患６	脊椎疾患　　骨・関節の炎症性疾患	講義	

評価方法	筆記試験（１時間別日に実施します）
参考文献と資料	テキスト： 回数1～6　　循環器　成人看護学(3)　（医学書院） 回数7～9　　臨床外科看護総論　（医学書院） 臨床外科看護各論　（医学書院） 回数10～15　運動器　成人看護学(10)　（医学書院）
事前準備や受講要件等	
☆担当教員の実務経験	①②③医師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	病理学Ⅲ	担当教員	外部講師☆ ①奥村　文浩 ②梶川　真樹 ③一川　貴洋 ④森　正彦 ⑤光本　一樹	単位数	1	時期	1年次 9月～
				時間数	30		

目的：疾病の病因・病変の特徴および系統別疾患の病態・治療・検査について学ぶ。

目標：1）疾病の分類と成り立ちが理解できる。

2）各疾患に必要な検査・治療が理解できる。

3）各系統別疾患に関する病態・治療・検査・予後を理解し、看護展開に生かすことができる。

回数	学習課題	内容	方法	担当教員
1	消化器内科疾患１	消化器の構造と機能	講義	奥村
2	消化器内科疾患２	消化器症状の病態生理　検査・治療	講義	
3	消化器内科疾患３	食道疾患　　胃・十二指腸疾患	講義	
4	消化器内科疾患４	大腸の疾患	講義	
5	消化器内科疾患５	肝臓・胆のう・膵臓の疾患	講義	
6	消化器外科疾患１	食道の外科	講義	梶川
7	消化器外科疾患２	胃・十二指腸の外科	講義	
8	消化器外科疾患３	腸の外科	講義	
9	消化器外科疾患４	肝臓・胆のう・膵臓の外科	講義	
10	乳腺・頸部外科疾患１	甲状腺外科	講義	一川
11	乳腺・頸部外科疾患２	乳腺外科	講義	
12	女性生殖器疾患１	女性生殖器の構造と機能 子宮の疾患	講義	森
13	女性生殖器疾患２	卵管・卵巣の疾患　月経異常・更年期障害	講義	
14	内分泌疾患１	内分泌疾患 糖尿病１	講義	光本
15	内分泌疾患２	糖尿病２	講義	

評価方法	筆記試験（１時間別日に実施します）
参考文献と資料	テキスト 回数1～5　消化器　成人看護学(5)　(医学書院) 回数6～11　臨床外科看護総論　(医学書院) 臨床外科看護各論　(医学書院) 回数12～13　女性生殖器　成人看護学(9)　(医学書院) 回数14～15　内分泌・代謝　成人看護学(6)　(医学書院)
事前準備や受講要件等	
☆担当教員の実務経験	①②③④⑤医師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	病理学Ⅳ	担当教員	外部講師☆ ①岩井　雅則 ②高木伸之介 ③杉田竜太郎 ④杉山　　豊 ⑤藤田　高史 ⑥桃井　　守	単位数	1	時期	1年次 10月～
				時間数	30		

目的：疾病の病因・病変の特徴および系統別疾患の病態・治療・検査について学ぶ。

目標：1）疾病の分類と成り立ちが理解できる。

2）各疾患に必要な検査・治療が理解できる。

3）各系統別疾患に関する病態・治療・検査・予後を理解し、看護展開に生かすことができる。

回数	学習課題	内　　容	方　法	担当教員
1	血液造血器疾患1	血液の生理と造血のしくみ 検査・診断・治療	講義	岩井
2	血液造血器疾患2	貧血　白血球減少症　白血病	講義	
3	血液造血器疾患3	悪性リンパ腫　多発性骨髄腫	講義	
4	脳神経内科疾患1	脳・神経系の構造と機能 症状とその病態生理	講義	高木
5	脳神経内科疾患2	脳血管障害　感染症	講義	
6	脳神経内科疾患3	パーキンソン症候群　筋委縮性側索硬化症 多発性硬化症	講義	
7	脳神経内科疾患4	認知症　脊髄疾患　てんかん	講義	
8	脳神経外科疾患1	頭蓋内圧亢進　脳ヘルニア 検査・診断・治療	講義	杉田
9	脳神経外科疾患2	脳血管障害	講義	
10	脳神経外科疾患3	脳腫瘍　頭部外傷　水頭症	講義	
11	腎臓内科疾患1	腎の構造と機能　電解質　排尿トラブル 尿・腎の検査	講義	杉山
12	腎臓内科疾患2	急性腎障害と慢性腎臓病　　腎不全　透析と腎移植	講義	
13	腎臓内科疾患3	ネフローゼ症候群　糸球体腎炎	講義	
14	泌尿器疾患1	泌尿器の構造と機能　症状と病態生理 検査・治療・処置	講義	藤田
15	泌尿器疾患2	前立腺癌　腎腫瘍　膀胱癌　腎・尿路結石	講義	桃井

評価方法	筆記試験（1時間別日に実施します）
参考文献と資料	テキスト： 回数1～3　　血液・造血器　成人看護学(4)　（医学書院） 回数4～7　　脳・神経　成人看護学(7)　（医学書院） 回数8～10　　脳・神経　成人看護学(7)　（医学書院） 臨床外科看護各論　（医学書院） 回数11～15　腎臓・泌尿器　成人看護学(8)　（医学書院）
事前準備や受講要件等	

授業科目	病理学Ⅴ	担当教員	外部講師☆ ①杉山　豊 ②澤崎百合香 ③宇佐美欽通 ④岩田　知之 ⑤河原　康 ⑥安藤　道代 ⑦山崎　潤二 ⑧稲垣　雅昭 ⑨有我　夏美 ⑩簑島　靖丈	単位数	1	時期	1年次 11月～
				時間数	30		

目的：疾病の病因・病変の特徴および系統別疾患の病態・治療・検査について学ぶ。

目標：1）疾病の分類と成り立ちが理解できる。

2）各疾患に必要な検査・治療が理解できる。

3）各系統別疾患に関する病態・治療・検査・予後を理解し、看護展開に生かすことができる。

回数	学習課題	内容	方法	担当教員
1	免疫・アレルギー疾患1	アレルギー疾患	講義	杉山
2	免疫・アレルギー疾患2	自己免疫疾患	講義	
3	皮膚科疾患	皮膚の構造と機能　症状と病態生理 検査・治療・処置 アトピー性皮膚炎　帯状疱疹　熱傷	講義	澤崎
4	眼科疾患1	目の構造と機能　症状と病態生理 治療・処置	講義	宇佐美
5	眼科疾患2	白内障　緑内障　網膜剥離　網膜症	講義	
6	耳鼻科疾患1	耳と鼻の構造と機能　症状と病態生理 検査・治療・処置　　顔面神経麻痺	講義	岩田
7	耳鼻科疾患2	外耳・中耳・内耳の疾患　メニエール病 鼻・咽頭・喉頭・唾液腺疾患	講義	
8	歯・口腔の疾患1	歯と口腔の構造と機能　症状と病態生理 検査・治療・処置	講義	河原
9	歯・口腔の疾患2	口腔粘膜疾患　顎骨の骨折　顎関節症 腫瘍　先天異常	講義	安藤
10	麻酔	麻酔の種類、術前・術中・術後管理	講義	山崎
11	手術侵襲と管理	手術侵襲と生体反応	講義	
12	救急処置1	主要病態に対する救急処置1	講義	稲垣
13	救急処置2	主要病態に対する救急処置2 全身の観察	講義	
14	救急患者の観察	各系統別の観察とアセスメント	講義	有我
15	医療用器具の原理と実際	人工呼吸器・輸液ポンプ・シリンジポンプ	講義	簑島

評価方法	筆記試験（1時間別日に実施します）
参考文献と資料	テキスト 回数1～2　アレルギー 膠原病 感染症　成人看護学(11)　(医学書院) 回数3　皮膚　成人看護学（12）（医学書院） 回数4～5　眼　成人看護学（13）(医学書院) 回数6～7　耳鼻咽喉成人看護学（14）　(医学書院) 回数8～9　歯・口腔　成人看護学（15）(医学書院) 回数10～14　臨床外科看護総論　(医学書院) 救急看護学　(医学書院) 回数15　臨床看護総論　基礎看護学（4）　(医学書院)
事前準備や受講要件等	
☆担当教員の実務経験	①②③④⑦⑧医師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ⑤⑥歯科医師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ⑨クリティカルケア看護認定看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ⑩臨床工学技士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	微生物学	担当教員	外部講師☆ 末松　寛之	単位数	1	時期	1年次 10月～
				時間数	30		

目的：微生物学の体系的な基礎知識を学び、人体に及ぼす影響および対応できる基礎的能力を養う。

目標：1）微生物学の特徴を理解する。

2）感染症について学び、その予防対策を理解する。

3）免疫の種類と疾患について理解する。

回数	学習課題	内　　容	方　法	担当教員
1	ヒトと感染症	感染症とは、治療、検査・診断のあゆみ	講義	末松
2	感染・感染症の機構	感染症の成立と経過、感染症の種類	講義	
3	感染・感染症の種類	感染源と感染経路、感染因子、感染症の種類	講義	
4	免疫と生体防御機構	免疫とその種類、細胞性・液性免疫、抗原抗体反応	講義	
5	免疫と生体防御機構	移植・輸血と免疫、免疫異常	講義	
6	感染症の予防と感染制御対策・技術	滅菌と消毒、予防接種	講義	
7	感染症の予防と感染制御対策・技術	院内感染予防対策 法律による感染症対策	講義	
8	細菌感染症1	細菌の形態・構造と分類 細菌感染症の治療と予防	講義	
9	細菌感染症2	主な病原細菌と疾患	講義	
10	細菌感染症3	主な病原細菌と疾患	講義	
11	細菌感染症4	主な病原細菌と疾患	講義	
12	ウイルス感染症1	ウイルスの病原性、検査・診断	講義	
13	ウイルス感染症2	主な病原ウイルスと疾患 主な病原真菌と疾患、原虫、衛生動物	講義	
14	まとめ		講義	
15	まとめ・試験			

評価方法	筆記試験、授業の出席状況、態度を総合的に評価
参考文献と資料	テキスト：わかる！身につく！病原体・感染・免疫　(南山堂)
事前準備や受講要件等	
☆担当教員の実務経験	臨床検査技師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	薬理学	担当教員	外部講師☆ 宮部　芳之	単位数	1	時期	1年次 6月～
				時間数	30		

目的：薬の作用を理解し、人に及ぼす影響を学び、臨床に役立てる。

目標：１）薬理学とは何か理解する。

２）薬の特徴と作用から生体への反応を理解する。

３）薬の管理について学ぶ。

４）薬物療法における看護師の役割を学ぶ。

回数	学習課題	内　　容	方　　法	担当教員
1	薬理学概要	薬による病気の治療のメカニズム	講義	宮部
2	薬の作用機序１	薬の作用機序、薬物療法時の看護師の役割 薬の作用と投与経路	講義	
3	薬の作用機序２	薬の体内動態、小児・高齢者への影響 薬効に影響する因子、薬の相互作用	講義	
4	薬の作用機序３	薬物中毒のしくみ、医薬品の法的規制	講義	
5	薬の作用機序４	新薬の開発、感染症と抗菌剤のしくみ	講義	
6	抗生物質・感染対策	抗生物質の使い方と有害作用 特殊な感染症とその対応、院内感染対策	講義	
7	治療に関する薬物１	がん治療薬　　化学療法、副作用対策 免疫抑制剤、増強剤とその適応	講義	
8	治療に関する薬物２	抗アレルギー薬、炎症、リウマチ、痛風に作用する薬 末梢神経作用薬、神経作用の増強、抑制薬	講義	
9	治療に関する薬物３	中枢神経作用薬、麻酔、精神病に用いる薬、高血圧 メタボリックシンドロームと心血管疾患、狭心症治療薬	講義	
10	治療に関する薬物４	心不全、不整脈、利尿薬、高脂血症の治療と薬物	講義	
11	治療に関する薬物５	貧血治療薬、抗血液凝固薬、気管支喘息治療薬	講義	
12	治療に関する薬物６	消化器、生殖器、糖尿病治療薬、生活改善薬	講義	
13	治療に関する薬物７	甲状腺、下垂体と骨粗鬆症治療薬、皮膚科、眼科治療薬	講義	
14	治療に関する薬物８	救急医療に使われる薬剤、消毒薬、漢方薬	講義	
15	まとめ・試験			

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	テキスト：薬理学　疾病の成り立ちと回復の促進（３）　（医学書院）
事前準備や受講要件等	
☆担当教員の実務経験	薬剤師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	臨床薬理学	担当教員	高橋比呂子☆① 外部講師☆ ②宮部　芳之 ③大津　陽子 ④有我　夏美	単位数	1	時期	3年次 4月～
				時間数	15		

目的：薬理学で学んだ知識を基に、薬物療法が安全に実施できるための看護の役割を理解する。

目標：1）薬物療法における生活調整・回復力の促進、服薬管理能力の向上のための看護に必要な知識を学ぶ。

2）薬物に関する安全管理の実際について理解する。

回数	学習課題	内容	方法	担当教員
1	薬物療法における役割	薬物療法における看護師の役割 医薬品の取り扱い 薬物の相互作用とハイリスク患者 薬物治療の評価	講義	高橋
2	薬物治療の基礎	医薬品の取り扱い 薬物治療の実際	講義	宮部
3	安全管理	病院で起こりやすいインシデント 特にリスクの高い医療品 外来・在宅での安全管理	講義	
4	がん患者の薬物療法	がん性疼痛に対する薬物療法 麻薬とレスキューの使用	講義	大津
5	救急時の薬物療法	救急時に使用される医薬品と注意点及び管理方法	講義	有我
6	病態に応じた薬物治療1	薬物投与の実際1	講義 演習	高橋
7	病態に応じた薬物治療2	薬物投与の実際2	演習	
8	試験（1h　）			

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	テキスト： 回数1～7　臨床薬理学　（医学書院） 回数4　がん看護学　（医学書院） 回数5　救急看護学　（医学書院）
事前準備や受講要件等	薬理学の復習をして臨むこと
☆担当教員の実務経験	①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②薬剤師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ③がん性疼痛看護認定看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ④クリティカルケア認定看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	栄養学	担当教員	外部講師 ☆ ①須藤由美子 ②細江　香苗 ③日比野奉美 ④渡辺　　愛 ⑤西田　朱里	単位数	1	時期	2年次 9月～
				時間数	30		

目的：生体の生命活動や健康に関与する事柄を栄養面から学び、疾患の種類や状態によって、必要な食事療法を理解し、看護実践における栄養学的な知識を習得する。

目標：1）栄養素の種類と働きについて理解する。
2）エネルギー代謝と栄養素の体内代謝について理解する。
3）栄養状態の評価・判定の目的とその方法について学ぶ。
4）ライフサイクルにおける栄養の重要性を理解する。
5）治療食の種類と目的を理解し、治療食に合わせた食材選びと調理方法を体験し、試食することで健康な人の食事との違いを学ぶ。

回数	学習課題	内　　容	方　法	担当教員
1	栄養素の種類と働き1	糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル	講義	須藤
2	栄養素の種類と働き2	食物繊維、水、食物の消化、栄養素の吸収	講義	
3	エネルギー代謝 基礎代謝量	食品のエネルギー・体内エネルギー エネルギー代謝の測定、エネルギー消費	講義	
4	代謝	血漿成分と栄養素、栄養素の代謝、肝臓の働き 核酸代謝、ポルフィリン代謝、吸収・代謝産物の排泄	講義	細江
5	人間栄養学と看護 栄養ケア・マネジメント	栄養を学ぶということ、保健医療における栄養学、看護と栄養 ﾁｰﾑｱﾌﾟﾛｰﾁと栄養ｹｱ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ、栄養ｽｸﾘｰﾆﾝｸﾞ 栄養ｱｾｽﾒﾝﾄ、栄養ｹｱ計画、計画の実施と確認 栄養ｹｱ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄの評価、計測実習	講義	
6	栄養状態の評価・判定	栄養状態の評価・判定、計測実習	講義	
7	食事と食品	人間の食事と食文化、日本人の食事摂取基準 食品と栄養素、食品群とその分類方法、食品の調理	講義	日比野
8	健康づくりと食生活	食生活の変遷と栄養の問題点 食生活の改善への施策、食の安全性と表示	講義	
9	ライフステージと栄養	乳幼児期、幼児期、学童期、思春期・青年期、成人期 妊娠期、授乳期、更年期、高齢期	講義	
10	臨床栄養1	チームで取り組む栄養管理、栄養補給法 病院食、経腸栄養製品、静脈栄養剤	講義	渡辺
11	臨床栄養2	疾患・症状別食事療法の実際1 （循環器疾患、消化器疾患、栄養・代謝疾患）	講義	
12	臨床栄養3	疾患・症状別食事療法の実際2 （腎臓疾患、血液疾患、食物アレルギー疾患、骨粗鬆症患者 咀嚼・嚥下障害患者）、場面別の栄養管理、がんの食事療法	講義	
13	調理演習1	病院治療食演習1	演習	渡辺・西田
14	調理演習2	病院治療食演習2	演習	
15	まとめ・試験			渡辺

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	テキスト：栄養学　人体の構造と機能（3）　（医学書院）
事前準備や受講要件等	
☆担当教員の実務経験	①②③④⑤管理栄養士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	社会福祉	担当教員	外部講師☆ 千葉忠道	単位数	2	時期	2年次 9月～
				時間数	45		

目的：社会福祉の概念や歴史的変遷、現在の社会福祉関係法制度・理念を学習するとともに、福祉サービスを必要とする人の福祉ニーズを当事者の視点から理解し、支援に繋げる力を養う。また、看護専門職として、保健・医療・福祉など多機関・多職種連携の実践ができるような社会保障・社会福祉の実践的知識を学ぶ。

目標：1) 生活問題・課題を抱える人の福祉ニーズを当事者の視点から理解できるようになる。
2) 看護師としての実践に応用できるような社会保障・社会福祉の法制度・サービスの知識を獲得する。
3) ソーシャルワークの知識や社会福祉関係専門機関・専門職などの役割を理解する。
4) 看護専門職として、保健・医療・福祉の多機関・多職種連携の実践ができるようになる。

回数	学習課題	内　　容	方　法	担当教員
1	福祉制度・福祉政策	福祉制度・政策の意義と理念、人口統計・動態、地域生活課題	講義	千葉
2	社会福祉の歴史	西欧の歴史、日本の歴史、現代社会における生活問題・ 福祉課題、福祉政策、今後の社会福祉についての理解	講義	
3	社会福祉の法制度	社会福祉法、福祉六法、福祉行財政の理解、事例検討	講義	
4	社会福祉の組織と 実施体制	社会福祉行政、社会福祉協議会、社会福祉法人等の組織・ 機関と専門職・従事者の役割の理解、事例検討	講義	
5	社会保障　Ⅰ	社会保障制度の体系、社会保障の財源と費用、社会保障制度改革、 諸外国における社会保障制度の概要	講義	
6	社会保障　Ⅱ	医療保険制度、年金保険制度の具体的概要	講義	
7	社会保障　Ⅲ	雇用保険制度、労災保険制度の具体的概要、事例検討	講義 演習	
8	社会保障　Ⅳ	社会保障制度を理解するための事例(ビネット)	講義 演習	
9	生活保護制度と生活 困窮者支援　Ⅰ	生活保護の動向、生活保護法の概要、基本原理、原則 生活保護の種類と方法、生活保護基準	講義	
10	生活保護制度と生活 困窮者支援　Ⅱ	被保護者の権利と義務、実施機関、実施過程、生活困窮者 自立支援法の概要、生活福祉資金貸付制度、事例検討	講義	
11	高齢者福祉と 介護保険制度　Ⅰ	高齢者福祉制度の発展過程、高齢者の生活実態と課題、老人福祉法、 高齢者虐待防止法、介護保険法の概要①	講義	
12	高齢者福祉と 介護保険制度　Ⅱ	介護保険法の概要②、介護保険サービスの種類、介護支援専門員等 専門職の役割、連携の方法、地域包括支援センターの役割、事例検討	講義	
13	障害者福祉　Ⅰ	障害者の定義と状況、障害者基本法、身体障害者福祉法、 知的障害者福祉法、精神保健福祉法、障害者総合支援法	講義	
14	障害者福祉　Ⅱ	発達障害者支援法、障害者雇用促進法、障害者差別解消法 障害者虐待防止法、事例検討	講義	
15	児童家庭福祉　Ⅰ	児童福祉法、障害児に対する支援、児童福祉施設や児童相談所の 役割、子ども・子育て支援法	講義	
16	児童家庭福祉　Ⅱ	児童虐待防止法、DV防止法、母子保健法、事例検討	講義	
17	ソーシャルワークの 理論と方法Ⅰ	自己理解、他者理解、面接技術、受容、共感、傾聴、マッピング技法 (ジェノグラム、エコマップ)、ケアマネジメント	講義 演習	
18	ソーシャルワークの 理論と方法Ⅱ	グループワークの理論と実践、展開過程、セルフヘルプグループ、 ジェネラリスト・ソーシャルワーク、事例検討	講義 演習	
19	地域福祉の理論と方法	地域福祉の理念、推進方法、地域福祉事例検討	講義	
20	地域包括ケアシステム、 地域共生社会の構築	地域包括ケアシステム、地域共生社会の実現、包括的・ 重層的支援体制の構築	講義	
21	事例検討　Ⅰ	ソーシャルワーク事例検討（各種課題別事例　Ⅰ）	講義 演習	
22	事例検討　Ⅱ	ソーシャルワーク事例検討(各種課題別事例　Ⅱ）、まとめ	講義 演習	
23	試験（1h）			

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	テキスト：　社会福祉と社会保障　健康支援と社会保障③　（メディカ出版） 参考文献：　厚生労働白書　（厚生労働省編） 国民の福祉と介護の動向　（厚生労働統計協会編） 社会福祉六法　（ミネルヴァ書房）
事前準備や受講要件等	①日常的に社会福祉に関する情報に関心を持ち、常に問題意識を持つこと ②随時最新の参考資料を配付するので、分類・整理・保存し、必ず復習すること ③積極的な自己学習と、受講に対する真摯な姿勢を望む
☆担当教員の実務経験	社会福祉士として行政機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	公衆衛生学	担当教員	外部講師☆ ①山田　敬一 ②田中　　耕 ③道林千賀子	単位数	1	時期	2年次 9月～
				時間数	30		

目的：公衆衛生の概念を学び、人々の疾病予防と健康保持増進のための保健活動を学ぶ。

目標：1）公衆衛生にかかわる基礎的な概念を学ぶ。

2）公衆衛生活動における疫学的統計手法や健康指標のとらえ方を学ぶ。

3）疾病予防と健康保持増進のための保健活動の実際を学ぶ。

回数	学習課題	内　　容	方　法	担当教員
1	健康と公衆衛生	公衆衛生の概念　公衆衛生の領域、活動の特徴 健康の概念、予防の概念	講義	山田
2	健康と環境	生活習慣と健康の関連 感染症とその予防	講義	
3	健康と環境、疫学的方法1	健康の多要因　疫学的方法による健康の理解	講義	田中
4	健康と環境、疫学的方法2	集団の健康被害の理解　健康被害と母集団、危険度 薬害	講義	
5	健康と環境、疫学的方法3	疫学的因果関係　疫学の考え方　疫学の方法	講義	
6	健康と環境、疫学的方法4	疫学的因果関係の推定　臨床疫学とエビデンス	講義	
7	健康の指標	健康に関連した指標　健康状態と受療状況	講義	
8	生活環境の保全	地球環境　食品管理	講義	
9	公衆衛生の対象と保健活動1	地域保健活動、地域保健法の理念と指針・精神保健福祉	講義	道林
10	公衆衛生の対象と保健活動2	結核	講義	
11	公衆衛生の対象と保健活動3	難病・産業保健	講義	
12	公衆衛生の対象と保健活動4	生活習慣病・健康教育とヘルスプロモーション	講義	
13	公衆衛生の対象と保健活動5	母子保健	講義	
14	公衆衛生の対象と保健活動6	学校保健	講義	
15	まとめ・試験			

評価方法	回数3～15　筆記試験
参考文献と資料	テキスト： 回数1～14　わかりやすい公衆衛生学　（ヌーヴェル　ヒロカワ） 国民衛生の動向　（厚生統計協会） 回数9～14　公衆衛生マニュアル　（南山堂）
事前準備や受講要件等	

授業科目	保健医療論	担当教員	外部講師 ☆ 杉田竜太郎	単位数	1	時期	3年次 4月～
				時間数	15		

目的：現代医療の全体像を描き、保健・医療実践の課題を学ぶ。

目標：1）保健・医療の対象である人の生命・健康・病みについて理解する。

2）生活と保健・医療の関係を理解する。

3）先端医療技術を学ぶと共に、倫理的問題を理解する。

4）医療の現場における患者の権利と医療者の責務について理解する。

回数	学習課題	内容	方法	担当教員
1	医療と看護の原点	命と健康	講義	杉田
2	私達の生活と医療1	病気や怪我をしたら	講義	
3	私達の生活と医療2	病気や怪我をしたら	講義	
4	技術社会の高度化1	先端医療の問題点	講義	
5	技術社会の高度化2	現代医療の落とし穴・倫理上のジレンマ	講義	
6	成熟する社会と 人々の意識改革	インフォームドコンセントと医療開示	講義	
7	生命倫理	エイズ・安楽死	講義	
8	試験（1h）		講義	

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	テキスト：総合医療論　(医学書院)
事前準備や受講要件等	
☆担当教員の実務経験	医師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	地域保健活動論	担当教員	外部講師☆ 植松　勝子.	単位数	1	時期	3年次 4月～
				時間数	15		

目的：個人や家族、特定集団より構成される地域全体を視野におき、各々のセルフケア能力の向上、家族・地域の力量を高めるコミュニティケアの実際を知る。

目標：1）地域に存在する健康問題への支援方法を学ぶ。

2）対象集団や関係機関の人々と連携し協働し、健康問題を解決するケアやサービスを知る。

3）地域に存在する社会資源の活用と新たな社会資源開発を知る。

4）地域で生活する人々が自分の生活と健康の関係を認識し、主体的に取り組みができるよう支援できる。

回数	学習課題	内　　容	方　　法	担当教員
1	地域看護とは 地域看護の理念	地域看護の理念・公衆衛生の理念	講義	植松
2	地域看護活動の歴史	日本における地域看護の歴史	講義	
3	地域看護の対象	対象としての個人・家族・グループ・組織・地域	講義	
4	地域看護の場	行政機関・職種・学校・医療機関・社会福祉施設・国際	講義	
5	社会環境の変化と健康問題	社会情勢の変化	講義	
6	地域看護活動の展開	健康と生活・理論および展開方法 地域看護活動の方法	講義	
7	活動の計画・実践・評価 地域看護管理	地域看護活動の展開における地域診断 地域看護活動に関する法令	講義	
8	試験（1h）			

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	テキスト：公衆衛生看護学概論　（医学書院）
事前準備や受講要件等	
☆担当教員の実務経験	保健師として行政機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	看護学概論	担当教員	中川満紀子☆	単位数	1	時期	1年次 4月～
				時間数	30		

目的：看護の概念･理念および看護の変遷を学び、看護の対象を正しく捉え、看護の本質を理解する。

目標：1）人間のライフサイクルにおける健康の意義を理解する。
2）看護の対象である人間を、全人的に理解する。
3）看護の機能と役割を学び、看護活動の概要を理解する。
4）保健･医療･福祉における看護の役割を理解する。
5）専門職業人としての態度を身につけ、倫理に基づいた行動ができる。
6）看護の変遷を理解し、今後の看護の課題と方向性について考えることができる。

回数	学習課題	内　　容	方　法	担当教員
1	看護の本質1	看護の定義と特性	講義	中川
2	看護の本質2	看護の変遷　看護の役割と機能	講義	
3	看護の対象1	統合体としての人間　ストレスと適応	講義	
4	看護の対象2	生活者としての人間の理解	講義	
5	人間にとっての健康1	健康のとらえ方	講義	
6	人間にとっての健康2	健康と病気に影響する関連要因1	講義	
7	人間にとっての健康3	健康と病気に影響する関連要因2	講義	
8	看護における倫理1	医療事故における法的責任 看護をめぐる制度と政策 看護実践における法的側面	講義	
9	看護における倫理2	看護倫理・倫理的課題と対応	講義	
10	看護の理論と実践1	看護実践のための理論的根拠1	講義	
11	看護の理論と実践2	看護実践のための理論的根拠2	講義	
12	看護提供のしくみ1	看護サービスの提供の場　看護の継続性	講義	
13	看護提供のしくみ2	看護のマネジメント　医療安全	講義	
14	看護の活動領域	災害看護、国際化と看護	講義	
15	試験とまとめ			

評価方法	筆記試験　80点 グループワークなどを総合的に評価、レポート　20点
参考文献と資料	テキスト：看護学概論　基礎看護学①　（メディカ出版） 参考文献：看護覚え書　（現代社） 新改訂　実践に生かす看護理論19　（サイオ出版） 看護六法　（新日本法規） よくわかる看護職の倫理綱領　（照林社）
事前準備や受講要件等	自己学習をして授業に臨む。
☆担当教員の実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	看護論セミナー	担当教員	水野　奈帆☆	単位数	1	時期	1年次 5月～
				時間数	15		

目的：対象の基本的欲求を学び、人間を統合体として理解できる。

目標：1）ヴァージニア・ヘンダーソンの看護の概念と概念枠組みが理解できる。

2）「基本的看護の構成要素」の充足した状態が理解できる。

3）人間を統合体として理解できる。

回数	学習課題	内　　容	方　法	担当教員
1	看護理論とは看護の独自の機能・基本的看護ケア	看護理論とは、看護理論を学ぶ意義 看護の独自の機能・基本的看護ケア グループワークの進め方	講義	水野
2	看護の基本的構成要素の理解1	呼吸・飲食・排泄	講義	
3	看護の基本的構成要素の理解2	姿勢・睡眠・衣類	講義	
4	看護の基本的構成要素の理解3	体温・清潔・環境・コミュニケーション	講義	
5	看護の基本的構成要素の理解4	信仰・達成感・レクリエーション・学習	講義	
6	看護の基本的構成要素の理解5	基本的看護の構成要素14項目の発表	講義	
7	統合体としての人間理解1	１４の基本的欲求の統合	講義	
8	統合体としての人間理解2（1h）	統合体としての人間理解の発表	講義	

評価方法	グループワークなどを総合的に評価、記録物、レポート
参考文献と資料	テキスト：看護の基本となるもの　（日本看護協会出版会） 看護覚え書　（現代社） 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践　（ヌーヴェルヒロカワ）
事前準備や受講要件等	看護学概論履修
☆担当教員の実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	基礎技術Ⅰ	担当教員	横田千代美☆ 安藤二充香☆	単位数	1	時期	1年次 4月～
				時間数	30		

目的：看護技術の構造を明らかにし、看護場面に共通する基本的技術を習得する。

目標：1）相互作用としてのコミュニケーションの特徴と重要性がわかる。
2）効果的なコミュニケーションのための知識・技術・態度を理解する。
3）望ましい対人関係について理解し、自分の対人関係を振り返ることができる。
4）感染予防策の基礎的知識を学び、スタンダードプリコーション（標準的感染予防策）が習得できる。

回数	学習課題		内容	方法	担当教員
1	看護技術とは		看護技術の特徴・範囲 看護技術を適切に実践するための要素 看護技術の発展と修得	講義	横田
2	コミュニケーションの技術	コミュニュケーションとは	コミュニケーションとは 対人関係プロセスとしての看護 看護とコミュニケーション	講義	
3		コミュニュケーションに影響する要因	文化とコミュニケーション 人間関係と空間	講義	
4		効果的なコミュニケーション	医療における信頼関係とコミュニケーション プロセスレコード	講義	
5		看護場面でのコミュニケーション1	技法を使ったコミュニケーション 自己紹介・同意書のとり方	演習	
6		看護場面でのコミュニケーション2	療養環境に応じたコミュニケーション	演習	
7		看護場面でのコミュニケーション3	患者の思いに触れるコミュニケーション	演習	
8		看護場面でのコミュニケーション4	実習後のコミュニュケーションの振り返り	講義	
9		コミュニケーション障害への対応	コミュニケーション障害のある人の特徴と対応	講義	
10	感染予防の技術	感染予防の基本	感染成立の仕組み・感染予防策の基本的な考え方	講義	安藤
11		感染源対策	看護師の役割と責務 消毒・滅菌の意義と方法 感染予防のための対策	講義	
12		感染防止の実際1	手洗い・滅菌手袋の取り扱い・ガウンテクニック	演習	
13		感染防止の実際2（1h）	滅菌物の取り扱い・無菌操作	演習	
14		感染防止の実際3	滅菌物の取り扱い・無菌操作	演習	
15	技術チェック		無菌操作の技術チェック	演習	
16	試験　（1h）				横田

評価方法	筆記試験 ＊筆記試験とは別に、無菌操作の技術チェックを実施
参考文献と資料	テキスト： 回数1～14　基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②（ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社） 回数3～8　基礎からステップアップ 看護コミュニケーション（へるす出版） 参考文献：　基礎看護技術 （医学書院）
事前準備や受講要件等	各演習の前に、動画視聴・技術の自己練習をした上で臨む。 自己練習をした上で技術チェックに臨む。
	①②看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	基礎技術Ⅱ´	担当教員	加治屋恵美子 ☆	単位数	1・	時期	1年次 6月～
				時間数	30		

目的：看護場面に共通する基本的技術を習得する。

目標：1）看護記録の意義と記録の基礎を理解し、POSで記録を書くことができる。

2）バイタルサインの意義について学び、正確な観察と測定の方法を習得する。

3）フィジカルアセスメントの基本技術を学び、習得する。

回数		学習課題	内　　容	方　法	担当教員
1	看護記録	看護記録と報告	看護記録の目的と意義 看護記録に関する法的規定 報告の目的と重要性	講義	加治屋
2	生体機能管理技術	フィジカルアセスメントの基本	フィジカルアセスメントの意義、身体各部の計測 アセスメントテクニック(問診、視診・聴診・触診・打診)	講義	
3		バイタルサインの観察１	バイタルサインの意義 1）体温　2）呼吸　3）脈拍・心拍	講義	
4		バイタルサインの測定１	体温・脈拍・呼吸の測定	演習	
5		バイタルサインの観察２	4）血圧　5）意識レベル	講義	
6		バイタルサインの測定２	血圧の測定	演習	
7		バイタルサインの測定３	事例を考えたバイタルサインの測定	演習	
8		フィジカルアセスメントの実際１	呼吸器系のアセスメント	講義・演習	
9		フィジカルアセスメントの実際２	循環器系のアセスメント	講義・演習	
10		フィジカルアセスメントの実際３	消化器系・のアセスメント	講義・演習	
11		フィジカルアセスメントの実際４	中枢神経系のアセスメント	講義・演習	
12		フィジカルアセスメントの実際５	運動器系・感覚器系のアセスメント	講義・演習	
13		観察・報告の実際１	事例に基づいた観察・報告の実際１	演習	
14		観察・報告の実際２	事例に基づいた観察・報告の実際２	演習	
15	技術チェック（1h）		血圧測定の技術チェック	演習	
16	試験（1h）				

評価方法	筆記試験 ＊筆記試験とは別に、血圧測定の技術チェックを実施
参考文献と資料	テキスト： 回数1～6　基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学②　（ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社） 基礎看護技術　（医学書院） 回数7～14　フィジカルアセスメントガイドブック　（医学書院） フィジカルアセスメントワークブック　（医学書院） 基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学②　（ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社）
事前準備や受講要件等	自己学習をして授業に臨む。 呼吸器系の解剖生理　・循環器系の解剖生理　・消化器系の解剖生理 感覚器系の解剖生理　・運動器系の解剖生理　・中枢神経系の解剖生理 各演習の前に、動画視聴・技術の自己練習をした上で臨む。 自己練習した上で技術チェックに臨む。
☆担当教員の実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	基礎技術Ⅲ	担当教員	①安藤二充香☆ ②池戸　梨香☆	単位数	1	時期	1年次 4月～
				時間数	30		

目的：看護場面に共通する基本的技術と、対象に必要な基本的日常生活援助技術を習得する。

目標：1）安楽かつ快適さを確保する技術を理解する。
2）実習で起こりうるヒヤリ・ハットの発生要因を理解し、防止策の基本を理解する。
3）看護における環境調整の意義と環境条件を理解する。
4）ベッドメーキングに必要な基本的技術を習得する。
5）患者の状態に合わせた療養環境を整える方法を習得する。
6）安全･安楽なリネン交換技術を習得する。

回数		学習課題	内　　容	方法	担当教員
1	安全・安楽の技術確保	安全・安楽を守るための技術	安全・安楽の意義と阻害する因子 看護技術に必要な安全性と安楽性	講義	安藤
2		安全管理	ヒヤリハットとは	講義	
3		安楽を確保する方法	リラクセーション 痛みの軽減　感覚への刺激	講義	
4	環境調整の技術	環境の調整	生活環境と健康に関する看護の意義	講義	池戸
5		患者を取り巻く生活環境１	環境の諸要素とその調整	講義	
6		患者を取り巻く生活環境２	病室と病床の環境調整	講義	
7		ベッドメーキングの実際１	必要物品と置き方、リネン類の畳み方 オープンベッド１	演習	
8		ベッドメーキングの実際２	オープンベッド２	演習	
9		ベッドメーキングのまとめと技術チェック	ベッドメーキングのまとめと技術チェック	演習	
10		療養環境を整えるための援助	療養環境を整えるための援助の実際	演習	
11		リネン交換の実際１	リネン交換１　リネン交換時の留意事項	演習	
12		リネン交換の実際２	リネン交換２	演習	
13		リネン交換の実際３	リネン交換３	演習	
14		技術チェック	リネン交換の技術チェック	演習	
15		技術チェック（１ｈ）	リネン交換の技術チェック	演習	
16	試験（１ｈ）				

評価方法	筆記試験 ＊筆記試験とは別に、ベッドメーキング・リネン交換の技術チェックを実施
参考文献と資料	テキスト： 回数 1、4～8、12～14　基礎看護技術　（医学書院） 回数 1～3、10～11　基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学②　（ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社） 回数　4～5　看護覚え書　（現代社） 回数　4～8　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③　（ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社）
事前準備や受講要件等	講義開始までに「看護覚え書：現代社」を読み、講義に臨む。 各演習の前に、動画視聴・技術の自己練習をした上で臨む。 基礎看護技術「V1ベッドメーキング」　基礎看護技術「V11リネンチェンジ」 自己練習をした上で技術チェックに臨む。
☆担当教員の実務経験	①②看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	基礎技術Ⅳ	担当教員	①横田千代美☆ ③安藤二充香☆ 外部講師☆ ②福田典子	単位数	1	時期	1年次 6月～
				時間数	30		

目的：看護場面に共通する基本的技術と、対象に必要な基本的日常生活援助技術を習得する。

目標：1）ボディメカニクスの原理に基づいた体位変換の技術の基本を習得する。

2）移動・移送技術の基礎を習得する。

3）清潔の生理的・精神的・社会的意義が理解でき、清潔の援助に必要な基本的技術を習得する。

回数		学習課題	内　　容	方　法	担当教員
1	活動と休息の援助技術	睡眠と休息	生活のリズムと活動・運動 睡眠と休息	講義	横田
2		姿勢と動作	姿勢と動作 安楽な体位 体位変換と移動	講義	
3		移動・移送の援助１	体位変換の方法	演習	
4		移動・移送の援助２	ベッド上移動動作	演習	
5		移動・移送の援助３	安楽な体位を保つ方法の実際１ 移動・移送の実際	演習	
6		移動・移送の援助４ （１ｈ）	安楽な体位を保つ方法の実際２	演習	
7	清潔・衣生活の援助技術	清潔の意義と援助 臥床患者の清潔の援助方法１	清潔の意義 清潔の援助に必要な知識 １）衣生活・整容　２）寝衣交換　３）全身清拭	講義	安藤
8		臥床患者の清潔の援助方法２	１）入浴　　２）足浴 ３）洗髪	講義	
9		臥床患者の清潔の援助方法の実際１	足浴	演習	
10		臥床患者の清潔の援助方法の実際２	全身清拭　＋　寝衣交換 点滴・ドレーン等を留置している患者も含む	演習	
11		臥床患者の清潔の援助方法の実際３	全身清拭　＋　寝衣交換 点滴・ドレーン等を留置している患者も含む	演習	
12		臥床患者の清潔の援助方法の実際４	洗髪	演習	
13		臥床患者の清潔の援助方法の実際５	洗髪	演習	
14		臥床患者の清潔の援助方法の実際６	口腔ケア　・　歯磨き	講義・演習	福田
15		臥床患者の清潔の援助方法の実際７	口腔ケア　・　歯磨き	演習	
16	試験（１ｈ）				

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	テキスト：　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③　（ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社） 基礎看護技術　（医学書院）
事前準備や受講要件等	自己学習をして授業に臨む。 皮膚・毛髪の解剖生理 各演習の前に、動画視聴・技術の自己練習をした上で臨む。 基礎看護技術「移動・移送の援助」 基礎看護技術「全身清拭」「寝衣交換」「足浴」「洗髪」「口腔ケア」
☆担当教員の実務経験	①③看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②歯科衛生士として勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	基礎技術Ⅴ	担当教員	水野　奈帆 ☆	単位数	1	時期	1年次 9月～
				時間数	30		

目的：看護場面に共通する基本的技術と、対象に必要な基本的日常生活援助技術を習得する。

目標：1）栄養と食事に関する基礎的知識を学び、患者の状態に適した食事介助の方法について理解し実施できる。

2）経管栄養法を受けている患者の観察と流動食の注入ができる。

3）排泄とは何かを学び、排泄の意義と重要性について理解する。

4）対象に必要な排泄援助技術を、原理・原則をふまえ、安全・安楽に実施できる。

回数		学習課題	内容	方法	担当教員
1	食生活と栄養摂取の援助技術	食事の意義と栄養	食事の意義 栄養と食事に関する基礎的知識	講義	水野
2		病人への食事 経口摂取の方法	食事と健康　　食事療法 経口摂取への援助の実際	講義	
3		非経口的栄養法	経管・経腸栄養法・経静脈栄養法 経鼻胃チューブによる栄養摂取の実際	講義	
4		経口摂取の実際1	食事摂取の自立困難な患者への援助	演習	
5		経口摂取の実際2 経管栄養法の実際	嚥下困難にて経口的に食事がとれない患者への援助 経管栄養法	演習	
6	排泄の援助技術	排泄に関する基礎知識	排泄の意義、メカニズム 排尿・排便の異常と障害	講義	水野
7		排泄への基本的援助	排泄の援助の必要な対象　尿・便器使用時の援助 自然排尿、自然排便への援助	講義	
8		便器・尿器による排泄の実際1	床上排泄（便器・尿器）	演習	
9		便器・尿器による排泄の実際2（1h）	オムツを用いての排泄の援助1	演習	
10		便器・尿器による排泄の実際3	オムツを用いての排泄の援助2	演習	
11		排泄障害のある人への援助 排便障害時の援助	排便障害とは 浣腸・摘便	講義	
12		排便障害時援助の実際	グリセリン浣腸・摘便	演習	
13		排泄障害のある人への援助 排尿障害時の援助	排尿障害とは 導尿・膀胱留置カテーテル	講義	
14		排尿障害時の援助1	導尿の実際1	演習	
15		排尿障害時の援助2	導尿の実際2　　留置カテーテル法の留意点	演習	
16	試験（1h）				

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	テキスト：基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③（ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社） 基礎看護技術　（医学書院）
事前準備や受講要件等	自己学習をして授業に臨む。 消化器の解剖生理、消化・吸収の仕組みについて 泌尿器・消化器の解剖生理、排尿・排便のメカニズムについて 各演習の前に、動画視聴・技術の自己練習をした上で臨む。 技術シリーズ「経管栄養のポイント」 基礎看護技術「Ｖｏｌ．１排尿・排便の援助」 看護技術シリーズ「Ｖｏｌ．４浣腸・摘便」
☆担当教員の実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	基礎技術Ⅵ	担当教員	旗屋麻紀 ☆	単位数	1	時期	1年次 9月～
				時間数	30		

目的：看護の理論的知識を基に問題解決思考を習得する。

目標：1）看護過程の目的・意義を理解する。

2）ヘンダーソン看護理論を用いた看護過程の展開方法を学ぶ。

3）事例をとおして、看護過程の展開ができる。

回数	学習課題	内容	方法	担当教員
1	看護過程の意義	科学的思考プロセスとしての技術 臨床判断能力とは 看護過程の基本	講義	旗屋
2	看護過程の展開1	情報の意義・情報の確認・整理 （常在条件・病理的状態）	講義	
3	看護過程の展開2	一般病態関連図・初期計画	講義	
4	看護過程の展開3	検温計画立案	講義	
5	看護過程の展開4	情報の確認・分類・整理	講義	
6	看護過程の展開5	基本的欲求に基づく情報の分析・解釈1	講義	
7	看護過程の展開6	基本的欲求に基づく情報の分析・解釈2	講義	
8	看護過程の展開7	基本的欲求に基づく情報の分析・解釈3	講義	
9	看護過程の展開8	問題の明確化（看護診断）	講義	
10	看護過程の展開9	看護問題の統合・優先順位	講義	
11	看護過程の展開10	全体関連図	講義	
12	看護過程の展開11	事例に応じた援助計画立案	講義	
13	看護過程の展開12	事例に応じた援助計画実施	演習	
14	看護過程の展開13	事例に応じた援助計画実施・評価・修正	講義・演習	
15	まとめ・試験		講義	

評価方法	記録物（看護過程）による評価　60点 筆記試験　40点
参考文献と資料	テキスト：　基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学②　（ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社） 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践　（ﾇｰｳﾞｪﾙﾋﾛｶﾜ ） ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト（ﾇｰｳﾞｪﾙﾋﾛｶﾜ ） 参考文献：　呼吸器　成人看護学（2）　（医学書院） 臨床検査　（医学書院） 今日の治療薬　（南江堂） 看護過程に沿った対症看護　（学研） 基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③　（ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社）
事前準備や受講要件等	看護過程：アセスメントに必要となる自己学習をして授業に臨む。
☆担当教員の実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	基礎技術Ⅶ	担当教員	①横田千代美☆ ③安藤二充香☆ 外部講師☆ ②日浅　友裕	単位数	1	時期	1年次 12月～
				時間数	30		

目的：対象に必要な診療に伴う技術を習得する。

目標：1）酸素吸入・薬液吸入療法について理解し安全・安楽に援助できる。

2）排痰法の基礎的知識を学び、安全・安楽に技術が実施できる。

3）体温異常時の対応方法を習得する。

4）生体情報のモニタリングの意義と看護の役割を理解する。

5）救急処置の基礎知識と一時救命処置に関する知識と技術を習得する。

6）危篤時、終末期の看護を理解する。

回数		学習課題	内容	方法	担当教員
1	呼吸・循環を整える技術	安楽な呼吸	呼吸の意義とアセスメント 呼吸を楽にする姿勢と呼吸法	講義	横田
2		酸素吸入療法 吸入療法 人工呼吸療法	援助の基礎知識 援助の実際	講義	
3		排痰ケア	排痰ケアの基礎知識,排痰ケアの援助の実際 持続吸引（胸腔ドレナージ）	講義	
4		吸引と吸入の実際	吸引・吸入の実際と援助	演習	
5		酸素療法の実際	酸素療法の実際と援助	演習	
6		体温異常時の看護１	1）体温管理・保温の基礎知識 2）罨法の種類と適応	講義	
7		体温異常時の看護２	温罨法　冷罨法の実際	演習	
8		呼吸・循環を整える援助１	事例を考えた呼吸・循環を整える援助の実際１	演習	
9		呼吸・循環を整える援助２	事例を考えた呼吸・循環を整える援助の実際２	演習	
10	救命・救急処置技術	救命救急処置の基礎知識	1）救急処置の意義と目的 2）救命蘇生法 3）止血法 4）生体情報モニタリングの基礎知識	講義	安藤
11		救急処置の実際　1	1）心電図検査　2）心電図モニター 3）Spo2モニター	演習	
12		救急処置の実際　2（1h）	4）止血法の実際	演習	
13		救急処置の実際　3	一時救命処置の実際	講義	
14	終末期における援助	危篤・終末期の看護１	死の兆候とケア	講義	日浅
15		危篤・終末期の看護２	死亡後のケア・遺族への関わり（グリーフケア）	講義	
16	試験（1h）				専任教員

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	テキスト： 回数1～13　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③　（ﾒﾃﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社） 基礎看護技術　（医学書院） 回数14～15　基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学②　（ﾒﾃﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社） 基礎看護技術　（医学書院）
事前準備や受講要件等	各演習の前に、動画視聴・技術の自己練習をした上で臨む。
☆担当教員の実務経験	①③看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②がん放射線療法看護認定看護師・がん看護専門看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ※救急処置の実際３：消防署にて実施

授業科目	基礎技術Ⅷ	担当教員	安藤二充香☆① 池戸　梨香☆②	単位数	1	時期	2年次 4月～
				時間数	30		

目的：　対象に必要な診療に伴う技術を習得する。

目標：　1）包帯法の基礎的知識を学び、目的に応じた援助方法を実施する。
2）与薬の目的と看護師の役割と法的責任を理解する。
3）安全に与薬を実施するための基礎的知識及び技術を習得する。
4）安全に輸血を実施するための基礎的知識及び方法を理解する。
5）診察・検査における看護師の役割が理解する。

回数		学習課題	内　　容	方　法	担当教員
1	創傷管理技術	創傷処置・包帯法１	創傷処置・包帯法の基礎知識	講義	安藤
2		創傷処置・包帯法２	創傷処置・包帯法・ドレーン管理	演習	
3	与薬・輸血の技術	与薬１	薬物療法の理解 薬物療法における看護師の役割 薬物療法を受ける患者の援助	講義	池戸
4		与薬２	経口与薬法 外用薬の皮膚・粘膜適用	講義	
5		注射法について１	注射法とは 注射法における看護師の役割と患者の援助 注射に必要な器具とその取り扱い 各種注射に共通する実施方法 注射による合併症	講義	
6		注射法について２	１）皮下注射　２）皮内注射　３）筋肉内注射	講義	
7		注射法の実際１	注射の援助と方法 １）皮下注射　２）筋肉内注射	演習	
8		注射法について３	４）静脈内注射　　５）点滴静脈内注射 ６）輸液ポンプ・シリンジポンプの操作	講義	
9		注射法の実際２	点滴静脈内注射	演習	
10		注射法の実際３	輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い	演習	
11		輸血療法	輸血療法の基礎知識・方法	講義	
12	症状・生体機能管理技術	診察・検査　１	診察・検査に伴う看護の役割 １）検体検査　　２）体液・組織の検査 ３）生体検査　　４）洗浄	講義	安藤
13		診察・検査　２（１ｈ）	検査の介助・検体の取り扱い	演習	
14		採血法と注射法の実際１	静脈血採血	演習	
15		採血法と注射法の実際２	簡易血糖検査	演習	
16	試験　（１ｈ）				

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	テキスト： 回数1～15　　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③　（ﾒﾃﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社） 回数3～10　　基礎看護技術　（医学書院） 回数3～4　　今日の治療薬　（南江堂） 回数12～13　　臨床検査　（医学書院）
事前準備や受講要件等	各演習の前に、動画視聴・技術の自己練習をした上で臨む。
☆担当教員の実務経験	①②看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	臨床看護総論	担当教員	加治屋恵美子☆	単位数	1	時期	1年次
				時間数	30		12月～

目的：対象の状況に応じて、学んだ知識・技術（共通基本技術・生活援助技術）を統合し安全・安楽な看護を提供できる能力を養う。

目標：1）経過別看護の考え方が理解できる。
2）主要症状を基に既習知識を関連付け、活用する方法を身に付ける。
3）事例に合わせて必要な援助を選択し、安全・安楽に基づいて実施できる。

回数	学習課題	内容	方法	担当教員
1	身体の機能に着目した看護	身体機能の変化に合わせた看護	講義	加治屋
2	病期の経過に応じた患者の看護1	急性期から終末期に至る患者の看護1	講義	
3	病期の経過に応じた患者の看護2	急性期から終末期に至る患者の看護2	講義	
4	治療・処置を受けている患者の看護	安静療法を必要とする患者の看護 1）安静療法の効果 2）安静療法とその弊害	講義	
5	主要症状を示す患者の看護1	痛みの種類とメカニズム 痛みを示す患者の観察 痛みを示す患者の看護	講義	
6	主要症状を示す患者の看護2	脱水の種類とメカニズム 脱水を示す患者の観察 脱水を示す患者の看護	講義	
7	主要症状を示す患者の看護3	浮腫のメカニズム 浮腫を示す患者の観察 浮腫を示す患者の看護	講義	
8	主要症状を示す患者の看護4	ショックの種類とメカニズム ショックを示す患者の観察 ショックを示す患者の看護	講義	
9	事例演習1	事例を通して必要な看護を導く1 1）情報分析・健康状態の把握 2）対象の症状・経過に応じた方法とは 3）援助計画立案	講義	
10	事例演習2	事例を通して必要な看護を導く2	講義	
11	事例演習3	事例を通して必要な看護を導く3	講義	
12	事例演習4	事例を通して必要な看護を導く4グループワーク 1）情報分析・健康状態の把握 2）対象の症状・経過に応じた方法とは 3）援助計画立案	演習	
13	事例演習5	グループ演習	演習	
14	事例演習6	グループ演習	演習	
15	まとめと試験			

評価方法	記録物：40点　　筆記試験：60点
参考文献と資料	テキスト： 回数1～14　臨床看護総論　基礎看護学⑤　（メディカ出版） 回数1～14　臨床看護総論　基礎看護学（4）（医学書院） 回数4～14　看護過程に沿った対症看護　（学研） 事例に応じて必要だと思われる教科書
事前準備や受講要件等	①事前学習はファイルに綴じて提出期限を厳守すること ②必要な参考書や資料を各自で事前に準備すること
☆担当教員の実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	地域・在宅看護概論	担当教員	①髙橋比呂子☆ 外部講師 ②清生　大貴	単位数	1	時期	1年次 4月～
				時間数	15		

目的：地域でのくらしと、地域で支えあう人々について理解する。

目標：１）地域の特徴と生活する人々を理解する。

２）地域の特徴が健康づくりに与える影響について理解する。

３）地域で健康を守る場とその人々について理解する。

回数	学習課題	内　　容	方　法	担当教員
1	地域とくらし	人々のくらしとはなにか　ライフサイクル	講義	髙橋
2	地域の特性１	岐阜県の特徴 東濃・中濃・西濃の特徴 多治見市の社会的環境・文化的環境・自然環境	講義	
3	地域の特性２	多治見市の社会的環境・文化的環境・自然環境 地域の特性が健康に与える影響	講義	
4	地域の特性と健康づくり１	健康と生活 ライフステージにおける健康障害	講義	
5	地域の特性と健康づくり２	健康を守る場と人々・各職種の専門性 地域での多様な看護の場	講義	
6	地域とくらしを支える看護	地域包括ケアシステムにおける看護の役割	講義	
7	地域と防災	岐阜県の防災対策 地域の防災拠点	講義	渡辺
8	試験（１ｈ）			髙橋

評価方法	レポート　　50点 筆記試験　　50点
参考文献と資料	テキスト： 地域・在宅看護の基盤　地域・在宅看護論（１）　（医学書院） 地域・在宅看護の実践　地域・在宅看護論（２）　（医学書院）
事前準備や受講要件等	
☆担当教員の実務経験	①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする ②県職員として行政に従事した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	地域・在宅看護各論Ⅰ	担当教員	①髙橋比呂子☆ 外部講師☆ ②熊澤　　誠子 ③高須賀香奈美	単位数	1	時期	2年次 6月～
				時間数	30		

目的：在宅看護の対象および、在宅看護の特徴を理解する。

目標：1）在宅看護が必要とされる背景及び在宅看護の目的を理解する。

2）在宅看護の対象及び特性を理解する。

3）在宅看護の仕組みと制度、社会資源と連携について理解する。

回数	学習課題	内　　容	方　法	担当教員
1	在宅看護の目的と特徴1	在宅看護とは・社会的背景と在宅看護の目ざすもの	講義	髙橋
2	在宅看護の目的と特徴2	在宅看護における看護師の役割と機能	講義	
3	在宅看護の対象1	対象者の特徴と理解	講義	
4	在宅看護の対象2	在宅看護の対象者としての家族 家族のとらえ方	講義	
5	在宅看護のしくみ1	訪問看護の歴史と創設 社会保障制度	講義	
6	在宅看護のしくみ2	介護保険制度　ケマネジメント	講義	
7	在宅看護のしくみ3	訪問看護と制度	講義	
8	在宅看護のしくみ4	各種保険・障害者等に関する法律と施策	講義	
9	在宅看護の展開1	在宅看護過程展開のポイント 社会資源・多職種との連携	講義	
10	在宅看護の展開2	地域包括ケアシステム 地域における包括支援の実際	講義	熊澤
11	在宅看護の展開3	訪問看護ステーションの機能と役割 訪問看護の実際	講義	高須賀
12	在宅看護の展開4	在宅看護を支える社会資源と連携1	講義	髙橋
13	在宅看護の展開5	在宅看護を支える社会資源と連携2	講義	
14	在宅看護の展開6	在宅看護を支える社会資源と連携3	講義	
15	まとめ・試験			

評価方法	筆記試験　95点 事前課題　5点
参考文献と資料	テキスト：地域・在宅看護の基盤　地域・在宅看護論（1）　（医学書院） 地域・在宅看護の実践　地域・在宅看護論（2）　（医学書院）
事前準備や受講要件等	居住地域の社会資源、地域包括支援センター、保健センター 社会福祉協議会の活動について調査
☆担当教員の実務経験	①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②保健師として行政機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ③訪問看護認定看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	地域・在宅看護各論Ⅱ	担当教員	髙橋比呂子☆	単位数	1	時期	2年次 11月～
				時間数	30		

目的：在宅療養を継続するために必要な支援のあり方と方法を理解する。

目標：1）在宅看護における安全性の確保について理解する。

2）在宅における日常生活の援助方法を知り、事例にあわせた援助方法が理解できる。

回数	学習課題	内容	方法	担当教員
1	対象者の権利	対象者の権利保障 在宅看護における倫理	講義	髙橋
2	安全性の確保1	在宅看護におけるリスクとは 医療事故防止・感染防止	講義	
3	安全性の確保2	災害時の在宅看護	講義	
4	生活を支える援助技術1	活動を支えるコミュニケーション	講義	
5	生活を支える援助技術2	呼吸機能に関する技術	講義	
6	生活を支える援助技術3	食生活・嚥下に関する技術	講義	
7	生活を支える援助技術4	排泄・移動・移乗に関する技術	講義	
8	生活を支える援助技術5	清潔に関する技術	講義	
9	清潔援助の実際1	事例に対する援助計画の立案	講義	
10	清潔援助の実際2	計画に沿った援助の実施・・・物品の工夫	講義	
11	清潔援助の実際3	計画に沿った援助の実施・・・ロールプレイ	演習	
12	清潔援助の実際4	計画に沿った援助の実施・・・ロールプレイ	演習	
13	清潔援助の実際5	発表　対象に応じた援助方法の違い	講義	
14	訪問看護における礼節	訪問マナー・実習に向けた心構え・訪問記録	講義	
15	まとめ・試験			

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	テキスト：地域・在宅看護の基盤　地域・在宅看護論（1）（医学書院） 地域・在宅看護の実践　地域・在宅看護論（2）（医学書院）
事前準備や受講要件等	

授業科目	地域・在宅看護各論Ⅲ	担当教員	①髙橋比呂子 ☆ 外部講師☆ ②舩渡　弘子 ③藤吉由美子 ④金井　勇樹	単位数	1	時期	2年次 10月～
				時間数	30		

目的：在宅療養を継続するために必要な支援のあり方と方法を理解する。

目標：1）家族を看護の対象として捉えることの重要性が理解できる。

2）現代家族の問題を、多様な観点から捉え、援助提供の方法を理解できる。

3）在宅療養移行期間の看護とアプローチが理解できる。

回数	学習課題	内　　容	方　法	担当教員
1	家族看護とは	家族看護の特徴と理念 ライフサイクルと家族・コミュニティと家族	講義	舩渡
2	家族とは	家族の捉え方　　家族機能 現代家族の課題	講義	
3	家族看護を支える理論	家族を理解するための理論 家族の変化を把握するための理論	講義	
4	家族に変化をもたらすための介入	家族に介入し機能を高める家族療法 家族を支える介入	講義	
5	家族看護の展開方法	情報収集の技術　アセスメント 看護計画の立案	講義	
6	家族看護の実際　1	事例に基づく家族看護の実際(慢性期、終末期)	講義	
7	家族看護の実際　2	事例に基づく家族看護の実際(小児、精神疾患患者他)	講義	
8	在宅療養移行への看護1	事例展開　情報収集とアセスメント	講義	髙橋
9	在宅療養移行への看護2	在宅療養移行期間での看護	講義	
10	在宅療養移行への看護3	在宅療養移行期間での看護と多職種連携・協働	講義	
11	継続看護1	退院調整と退院支援	講義	藤吉
12	継続看護2	継続看護の意義と方法（サマリーの記入）	講義	髙橋
13	リハビリテーションの実際1	日常生活障害へのアプローチ	講義	金井
14	リハビリテーションの実際2	住環境とさまざまな自助具	講義	
15	まとめ・試験			髙橋

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	テキスト： 回数1～12　地域・在宅看護の基盤　地域・在宅看護論(1)(医学書院) 地域・在宅看護の実践　地域・在宅看護論(2)(医学書院) 回数1～7　家族看護学　(医学書院) 回数13～14　リハビリテーション看護　(医学書院) 地域・在宅看護の実践　地域・在宅看護論(2)(医学書院)
事前準備や受講要件等	

授業科目	地域・在宅看護各論Ⅳ	担当教員	外部講師☆ ①三島　栄高 ②藤吉由美子	単位数	1	時期	3年次 4月～
				時間数	30		

目的：医療依存度の高い療養者と家族に対する援助のあり方と方法を理解する。

目標：１）症状・疾患に対する在宅療養者への援助と看護の実際を理解する。

２）在宅での医療処置に伴う援助を理解する。

３）対象および家族の価値観・生活様式を尊重した看護の展開方法を理解する。

回数	学習課題	内　　容	方　法	担当教員
1	在宅医療技術１	褥瘡・尿道留置カテーテルのケア ストーマケア	講義	三島
2	在宅医療技術２	経管栄養時のケア 疼痛緩和ケア・放射線療法時のケア	講義	
3	在宅医療技術３	化学療法時のケア 在宅輸液療法時のケア	講義	
4	在宅医療技術４	在宅酸素療法・非侵襲的陽圧換気療法の実際	講義	
5	在宅看護技術１	栄養状態改善のケア　NST	講義	
6	在宅看護技術２	在宅で最期を迎える療養者の看護 グリーフケア	講義	
7	在宅看護の実際１	在宅看護介入時期別の特徴	講義	藤吉
8	在宅看護の実際２	脳血管障害の療養者の看護 パーキンソン病の療養者の看護	講義	
9	在宅看護の実際３	認知症の療養者の看護 小児の療養者の看護	講義	
10	在宅看護の実際４	人工呼吸療法を実施する療養者の看護 在宅酸素療法を実施する療養者の看護	講義	
11	在宅看護の実際５	独居の療養者に対する在宅看護	講義	
12	在宅看護の実際６	終末期療養者の看護１	講義	
13	在宅看護の実際７	終末期療養者の看護２	講義	
14	在宅看護の実際８	精神疾患療養者の看護	講義	
15	まとめと試験			

評価方法	筆記試験(60点) レポート (40点)
参考文献と資料	テキスト：地域・在宅看護の基盤　地域・在宅看護論（１）（医学書院） 地域・在宅看護の実践　地域・在宅看護論（２）（医学書院）
事前準備や受講要件等	
☆担当教員の実務経験	①看護師として医療機関や施設に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②訪問看護認定看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	地域・在宅看護各論Ⅴ	担当教員	髙橋比呂子☆	単位数	1	時期	3年次 11月～
				時間数	15		

目的：保健・医療・福祉の提供に向けて、お互いの職種の特性を活かしながら、対象の目標達成、問題解決に向けてよりよい方法をともに検討し、実現をめざす能力を養う。

目標：1）多職種の専門性と役割を学び、看護職と多職種の共通性、違いについて理解する。

2）多職種で対象者の目標達成、ケアの質の向上に向けて、ともに深く考えることができる。

3）多職種との関わりから職業倫理や臨床倫理について考えることができる。

4）多職種協働・連携に向けての展望及び看護の専門性を考えることができる。

回数	学習課題	内　　容	方　法	担当教員
1	多職種連携の意義	多職種連携の意義と学習目的 看護職の専門性・役割 多職種の専門性・役割	講義	髙橋
2	各職種の理解 共通性の基盤づくり	多職種の専門性・役割について発表会・意見交換	講義	
3	事例検討1	嚥下障害のある療養者への援助	講義	
4	事例検討2	嚥下障害のある療養者への援助	講義	
5	専門職連携の実際1	他学科・他校とカンファレンス(発表会、意見交換)1	講義	
6	専門職連携の実際2	他学科・他校とカンファレンス(発表会、意見交換)2	講義	
7	多職種連携の意義と方法	多職種の専門性・役割の実際について 看護の専門性 職種協働・連携に向けての展望	講義	
8	まとめ（1h）	演習をとおしての学び・レポート作成	講義	

評価方法	レポート
参考文献と資料	テキスト：地域・在宅看護の基盤　地域・在宅看護論（1）（医学書院） 地域・在宅看護の実践　地域・在宅看護論（2）（医学書院）
事前準備や受講要件等	
☆担当教員の実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	成人看護学総論	担当教員	①加治屋恵美子☆ 外部講師☆ ②木村ゆかり ③日浅　友裕	単位数	1	時期	1年次 7月～
				時間数	30		

目的：ライフサイクルにおける成人期の位置づけを明確にし、そのステージの成人がおかれている生活環境を踏まえて成人看護の役割を理解する。

目標：１）成人期の対象を理解する。
２）成人期の発達段階と特徴について理解する。
３）成人のもつ健康問題の多様性について理解する。
４）成人保健の動向と保健・医療対策を学び、保健・医療・福祉チームの一員としての看護の役割を理解する。

回数	学習課題	内　　容	方法	担当教員
1	成人看護学の概要	成人看護学の概念と構造　対象の理解 成人各期の発達課題　生涯発達の特徴	講義	加治屋
2	成人と生活	成人期の発達課題の特徴 対象の生活　　働いて生活を営むこと	講義	
3	生活と健康	成人を取り巻く環境と生活からみた健康 成人の健康の状況	講義	
4	生活ストレスと看護	健康バランスに影響を及ぼす要因 生活行動がもたらす健康問題とその予防	講義	
5	生活と健康をまもりはぐくむシステム	健康増進・生活習慣病対策（健康日本21等） 保健・医療・福祉システムの連携	講義	木村
6	健康生活をはぐくむ看護	健康生活をはぐくむ看護 ヘルスプロモーション 健康をはぐくむ看護の場と活動	講義	
7	看護アプローチの基本	生活の中で健康行動を生み、はぐくむ援助 大人の健康行動を促進する看護アプローチ 人々の集団における調和や変化を促す看護アプローチ 看護実践における倫理	講義	日浅
8	セルフケア再調整を促す看護１	慢性的な健康状態の揺らぎと慢性病 セルフケア	講義	
9	セルフケア再調整を促す看護２	慢性病との共存の過程を支える看護 慢性病患者への看護技術	講義	
１０	セルフケア再調整を促す看護３	退院をめぐる医療制度の動向 患者・家族にとっての退院の意味 退院調整活動	講義	
１１	セルフケア再獲得を促す看護１	生活行動レベルとセルフケアアセスメント セルフケア再獲得を促すための人的・法的支援	講義	
１２	セルフケア再獲得を促す看護2	障害を持つ人とリハビリテーション 障害を持ちながら生活する人を支援する看護	講義	
１３	健康危機状況におけるセルフケア支援１	健康の急激な破綻 急激な健康破綻をきたした人の看護	講義	
１４	健康危機状況におけるセルフケア支援２	終末期患者の全人的な痛みの理解と援助 終末期患者の家族への援助 人生最後のときを支える看護	講義	
１５	まとめ・試験			加治屋

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	テキスト：成人看護学総論　成人看護学（１）（医学書院） 国民衛生の動向　　（厚生統計協会）
事前準備や受講要件等	
☆担当教員の実務経験	①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②保健師として医療機関や行政機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ③がん放射線療法看護認定看護師・がん看護専門看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	成人看護学各論Ⅰ	担当教員	専任教員 ①加治屋恵美子 ②横田　千代美 外部講師 ③山村由起子 ④石橋津喜子	単位数	1	時期	1年次 １１月～
				時間数	30		

目的：機能障害発症の成り行きと症状の成因・関連要因を学び、セルフマネジメントを必要とする人の看護の方法を理解する。
目標：１）呼吸機能障害発症の成り行きと症状の成因・関連要因を学び、看護の方法を理解する。
　　２）循環機能障害発症の成り行きと症状の成因・関連要因を学び、看護の方法を理解する。

回数	学習課題	内　　容	方法	担当教員
1	成人看護学各論の学び方	機能障害別の看護と疾患別看護	講義	加治屋
2	呼吸機能障害１	呼吸機能とその障害	講義	横田
3	呼吸機能障害２	換気障害・拡散障害・肺循環障害	講義	
4	呼吸機能障害３	呼吸困難の要因と関連要因・アセスメント・看護	講義	
5	呼吸機能障害４	咳嗽・痰（血痰・喀血）の成因とメカニズム・アセスメント・看護	講義	
6	呼吸器疾患を持つ患者の看護１	呼吸機能障害の治療に伴う看護１（胸腔鏡下手術・肺切除術・気管支視鏡検査）肺がん	講義	山村
7	呼吸器疾患を持つ患者の看護２	呼吸機能障害の治療に伴う看護２（胸腔ドレナージ・呼吸リハビリテーション）肺炎　結核　気胸	講義	
8	呼吸器疾患を持つ患者の看護３	呼吸機能障害の治療に伴う看護３（人工呼吸療法・在宅酸素療法）慢性閉塞性肺疾患（COPD）呼吸不全	講義	
9	循環機能障害１	循環機能とその役割・障害	講義	横田
１０	循環機能障害２	胸痛の要因・アセスメント・看護 心不全の要因・アセスメント・看護	講義	
１１	循環機能障害３	不整脈の要因・アセスメント・看護 高血圧・動脈硬化の要因・アセスメント・看護	講義	
１２	循環器疾患を持つ患者の看護１	心臓カテーテル検査　ペースメーカー治療 心臓リハビリテーション	講義	石橋
１３	循環器疾患を持つ患者の看護２	虚血性心疾患　心不全	講義	
１４	循環器疾患を持つ患者の看護３	弁疾患　不整脈	講義	
１５	まとめ・試験			加治屋

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	テキスト： 回数１　（成人看護学各論の学び方）はテキスト不要 回数2～14　看護過程に沿った対症看護　（学研） 回数2～8　呼吸器　成人看護学（2）　（医学書院） 回数9～14　循環器　成人看護学（3）　（医学書院）
事前準備や受講要件	
☆担当教員の実務経験	①②③看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ④慢性心不全認定看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	成人看護学各論Ⅱ	担当教員	①安藤二充香☆ 外部講師☆ ②川口　晶代 ③西尾　涼一 ④渡辺　智恵 ⑤山田　成美	単位数	1	時期	2年次 4月～
				時間数	30		

目的：機能障害発症の成り行きと症状の成因・関連要因を学び、セルフマネジメントを必要とする人の看護の方法を理解する。

目標：1）内部環境調整機能障害発症の成り行きと症状の成因・関連要因を学び、看護の方法を理解する。
2）血液造血器機能障害発症の成り行きと症状の成因・関連要因を学び、看護の方法を理解する。
3）身体防御機能障害発症の成り行きと症状の成因・関連要因を学び、看護の方法を理解する。
4）性・生殖機能障害発症の成り行きと症状の成因・関連要因を学び、看護の方法を理解する。

回数	学習課題	内　　容	方法	担当教員
1	内部環境調整機能障害１	体液調節機能とその障害　腎不全の要因	講義	安藤
2	内部環境調整機能障害２	内分泌機能とその役割　機能障害の要因	講義	
3	内部環境調整機能障害を持つ患者の看護１	腎不全　　透析療法	講義	川口
4	内部環境調整機能障害を持つ患者の看護２	ネフローゼ症候群 前立腺肥大症（前立腺癌）膀胱癌	講義	西尾
5	血液造血機能障害１	造血機能とその役割・障害 貧血のアセスメント・看護	講義	安藤
6	血液造血機能障害２	感染のメカニズム　易感染のアセスメント・看護 止血のメカニズム　出血傾向のアセスメント・看護 造血器腫瘍のアセスメント・看護	講義	
7	身体防御機能障害１	生体防御機能とその障害　アセスメント・看護	講義	安藤
8	身体防御機能障害２	免疫のメカニズム・免疫障害の要因・ アセスメント・看護	講義	
9	血液造血器疾患を持つ患者の看護１	検査　化学療法・輸血療法　造血幹細胞移植	講義	渡辺
１０	血液造血器疾患を持つ患者の看護２	白血病　悪性リンパ腫	講義	
１１	性・生殖機能障害１	性・生殖機能とその障害・看護	講義	山田
１２	性・生殖機能障害２	女性不妊・男性不妊の原因と看護及び検査	講義	
１３	女性生殖器疾患を持つ患者の看護１	子宮鏡検査　ホルモン療法　診療介助 手術療法（開腹・経膣・腹腔鏡下）	講義	
１４	女性生殖器疾患を持つ患者の看護２	子宮がん　卵巣腫瘍	講義	
１５	まとめ・試験			

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	テキスト： 回数　1～14　　看護過程に沿った対症看護　（学研） 回数　1～4　　腎臓・泌尿器　成人看護学（８）　（医学書院） 回数　5～6、9～10　　血液・造血器　成人看護学（４）　（医学書院） 回数　7～8　　アレルギー 膠原病 感染症　成人看護学（11）　（医学書院） 回数　11～14　　女性生殖器　成人看護学（９）（医学書院）
事前準備や受講要件	
☆担当教員の実務経験	①③看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②透析看護認定看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ④がん薬物療法看護認定看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ⑤保健師・助産師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	成人看護学各論Ⅲ	担当教員	①加治屋恵美子☆ ⑤横田　千代美☆ 外部講師☆ ②江崎寿昌 ③加納敦子 ④為保翔太	単位数	1	時期	2年次 4月～
				時間数	30		

目的：機能障害発症の成り行きと症状の成因・関連要因を学び、セルフケア再獲得を必要とする人の看護の方法を理解する。

目標：1）脳・神経障害発症の成り行きと症状の成因・関連要因を学び、看護の方法を理解する。
2）運動機能障害発症の成り行きと症状の成因・関連要因を学び、看護の方法を理解する。
3）リハビリテーションの意義について学び、その実際を理解する。

回数	学習課題	内　容	方法	担当教員
1	脳・神経機能障害１	脳・神経機能とその障害	講義	加治屋
2	脳・神経機能障害２	頭蓋内圧亢進症状　意識障害の要因・ アセスメント・看護	講義	
3	脳・神経機能障害３	運動麻痺　運動失調の要因・アセスメント・看護 言語障害の要因・アセスメント・看護	講義	
4	脳神経疾患を持つ 患者の看護１	髄液検査　脳血管造影　開頭手術 血管バイパス術　低体温療法中の援助	講義	江崎
5	脳神経疾患を持つ 患者の看護２	脳血管障害　脳腫瘍　パーキンソン病	講義	
6	運動機能障害１	骨格系の運動機能とその障害 （大腿骨頸部骨折）	講義	横田
7	運動機能障害２	脊椎の運動機能とその障害 （椎間板ヘルニア）	講義	
8	運動機能障害３	関節の運動機能とその障害 （変形性関節症）	講義	
9	運動器疾患を持つ 患者の看護１	脊髄造影検査 牽引療法　ギプス固定　副子固定	講義	加納
１０	運動器疾患を持つ 患者の看護２	大腿骨頚部骨折　脊髄損傷	講義	
１１	看護とリハビリ テーションの実際１	リハビリテーション看護概論 運動器系の障害とリハビリテーション看護	講義	為保
１２	看護とリハビリ テーションの実際２	中枢神経系の障害とリハビリテーション看護１	講義	
１３	看護とリハビリ テーションの実際３	中枢神経系の障害とリハビリテーション看護２ 呼吸・循環器系の障害とリハビリテーション看護	講義	
１４	看護とリハビリ テーションの実際４	介助方法の実際　トランスファー	演習	
１５	まとめ・試験			加治屋

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	テキスト： 回数1～10　看護過程に沿った対症看護　（学研） 回数1～5　脳・神経　成人看護学（７）　（医学書院） 回数6～10　運動器　成人看護学（10）　（医学書院） 回数11～14　リハビリテーション看護　（医学書院） 基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③　（ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社）
事前準備や受講要件等	
☆担当教員の実務経験	①③⑤看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②脳卒中リハビリテーション認定看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ④理学療法士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	成人看護学各論Ⅳ	担当教員	①水野　奈帆☆ ②安藤二充香☆ 外部講師☆ ③山田　千恵 ④澤田真由子 ⑤矢田　匡城 ⑥香西　由加 ⑦土屋あすか ⑧櫻井由美子	単位数	1	時期	2年次 5月～
				時間数	30		

目的：機能障害発症の成り行きと症状の成因・関連要因を学び、セルフケア再獲得を必要とする人の看護の方法を理解する。
目標：1）栄養代謝機能障害の成り行きと症状の成因・関連要因を学び、看護の方法を理解する。
2）消化吸収機能障害の成り行きと症状の成因・関連要因を学び、看護の方法を理解する。
3）放射線検査・治療の特徴を学び、放射線療法の副作用症状への看護の役割を理解できる。
4）化学療法の概要を知り、看護の役割を理解できる。

回数	学習課題	内容	方法	担当教員
1	栄養代謝機能障害1	栄養代謝機能とその役割 高血糖・低血糖のメカニズム 糖尿病の要因・アセスメント・看護	講義	水野
2	栄養代謝機能障害2	高脂血症の要因・アセスメント・看護 肝不全の要因・アセスメント・看護	講義	
3	消化・吸収機能障害1	消化・吸収機能とその役割食欲不振・嘔吐の要因・アセスメン	講義	安藤
4	消化・吸収機能障害2	吐血・下血の要因・アセスメント・看護 腹部膨満・便秘・下痢の要因・アセスメント・看護	講義	
5	消化機能障害・栄養代謝機能障害を持つ患者の看護1	内視鏡検査　放射線検査	講義	山田
6	消化機能障害・栄養代謝機能障害を持つ患者の看護2	胃・十二指腸疾患　肝硬変　膵炎 潰瘍性大腸炎・クローン病　（生活指導）	講義	
7	皮膚・排泄ケアの実際1	褥瘡の要因と予防　褥瘡の治療と看護	講義	澤田
8	皮膚・排泄ケアの実際2	ストーマケア	講義・演習	
9	放射線検査の特徴	IVR　MRI　核医学診断　超音波診断	講義	矢田
10	放射線療法と健康管理	放射線療法における健康障害と健康管理	講義	香西
11	放射線療法を受ける対象への看護1	放射線療法における看護の役割	講義	土屋
12	放射線療法を受ける対象への看護2	放射線療法における看護の実際	講義・演習	
13	化学療法を受ける対象への看護1	化学療法とは　化学療法における看護の役割	講義	櫻井
14	化学療法を受ける対象への看護2	化学療法における看護の実際	講義・演習	
15	まとめ・試験			水野

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	テキスト： 回数1～2　内分泌・代謝　成人看護学（6）　（医学書院） 回数1～6　看護過程に沿った対症看護　（学研） 消化器　成人看護学（5）　（医学書院） 回数7～8　皮膚　成人看護学（12）　（医学書院） 臨床看護総論　基礎看護学（4）（医学書院） 回数9～12　臨床放射線医学　（医学書院） 回数11～14　がん看護学　（医学書院） 臨床看護総論　基礎看護学（4）（医学書院）
事前準備や受講要件等	
☆担当教員の実務経験	①②看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ④皮膚排泄ケア認定看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ⑤⑥医師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ⑦がん看護専門看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ⑧がん薬物療法看護認定看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	成人看護学各論Ⅴ	担当教員	①加治屋恵美子☆ 外部講師☆ ②小島智子	単位数	1	時期	2年次 6月～
				時間数	30		

目的：健康の保持・増進の重要性を理解し、健康上の諸問題を捉え、セルフマネジメントを支援する看護の実際を、問題解決の方法に基づき援助ができる能力を養う。

目標：慢性期の事例を通して健康障害を持つ成人の看護を理解し、成人看護に必要な知識・技術を統合する。

回数	学習課題	内　　容	方法	担当教員
1	糖尿病看護の基本	糖尿病とは 糖尿病の基礎知識・疾患の理解・看護	講義	小島
2	看護過程の展開1	看護過程の流れ データベースの記載	講義	加治屋
3	看護過程の展開2	基本的欲求に基づく情報の分析・解釈1 事例の病態理解	講義	
4	看護過程の展開3	基本的欲求に基づく情報の分析・解釈2	講義	
5	看護過程の展開4	基本的欲求に基づく情報の分析・解釈3	講義	
6	看護過程の展開5	基本的欲求に基づく情報の分析・解釈4	講義	
7	看護過程の展開6	問題の明確化	講義	
8	看護過程の展開7	統合関連図　指導技術とは	講義	
9	看護過程の展開8	指導計画書立案1	講義	
10	看護過程の展開9	指導計画書立案2	講義	
11	看護過程の展開10	指導計画書立案3	講義	
12	看護過程の展開11	指導計画書立案4	講義	
13	看護過程の展開12	援助の実際1	演習	
14	看護過程の展開13	援助の実際2	演習	
15	看護過程の展開14	援助後の評価	講義	

評価方法	記録物（看護過程）による評価
参考文献と資料	テキスト： 回数1～15　内分泌・代謝　成人看護学講座（6）（医学書院） 回数8　基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学②（ﾒﾃﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社） 参考図書　臨床検査（医学書院） 今日の治療薬（南江堂） 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践（ﾇｰｳﾞｪﾙﾋﾛｶﾜ） ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト（ﾇｰｳﾞｪﾙﾋﾛｶﾜ）
事前準備や受講要件等	自己学習をして授業に臨む。常に事前学習ファイルを用意して授業に臨む。
☆担当教員の実務経験	①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②糖尿病看護認定看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	成人看護学各論Ⅵ	担当教員	①加治屋恵美子☆ 外部講師☆ ②田口　知枝 ③若尾　留美 ④幡鉾　梨絵	単位数	1	時期	2年次 10月～
				時間数	30		

目的：周手術期看護・クリティカルケアを知り、臨床判断の基礎的能力を養う。

目標：1）周手術期の特徴を知り、看護の方法を理解する。

2）救急看護・集中治療を受ける患者の看護を理解する。

3）臨床判断能力の概要を知り、必要な判断ができる。

回数	学習課題	内容	方法	担当教員
1	手術を受ける患者の看護1	術前・術後の看護　胃切除　胆嚢摘出術	講義	田口
2	手術を受ける患者の看護2	乳房手術　人工肛門造設術	講義	
3	手術中の患者の看護	手術中の看護の要点 手術室における看護の展開	講義	若尾
4	救急看護の特徴	救急患者の特徴　救急医療体制 救急看護と法的・倫理的側面　感染管理	講義	幡鉾
5	集中治療を受けている患者の看護	輸液ライン挿入中　気管内チューブ挿入中 気管切開･酸素療法・ＭＥ機器装着中 心臓手術	講義	
6	重症集中治療を受ける患者の看護	外傷　熱傷　中毒	講義	
7	臨床判断能力の基礎1	臨床判断モデルを求められる場面1	講義	加治屋
8	臨床判断能力の基礎2（1h）	臨床判断モデルを求められる場面2	講義	
9	臨床判断能力の基礎3	臨床判断モデルとは	講義	
10	臨床判断能力の活用1	周手術期事例の解釈・判断	講義	
11	臨床判断能力の活用2	状況の変化に応じた検温計画の立案	演習	
12	臨床判断能力の活用3	状況の変化に応じた援助計画の立案	演習	
13	臨床判断能力の活用4	臨床判断の実際　援助の実施1	演習	
14	臨床判断能力の活用5	臨床判断の実際　援助の実施2	演習	
15	臨床判断能力の活用6	実施後の省察・まとめ	講義	
16	試験（1h）			

評価方法	回数1～6　筆記試験　40点 回数7～15　記録物　60点
参考文献と資料	テキスト： 回数1～2　臨床外科看護各論　（医学書院） 回数1～3　臨床看護総論　基礎看護学（4）（医学書院） 回数3　臨床外科看護総論　（医学書院） 回数4～6　救急看護学　（医学書院） 臨床外科看護各論　（医学書院） 回数7～14　基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学②　（ﾒﾃﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社）
事前準備や受講要件等	自己学習をして授業に臨む。
☆担当教員の実務経験	①②看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ③手術看護認定看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ④集中ケア認定看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	老年看護学概論	担当教員	①旗屋　麻紀☆ 外部講師☆ ②三輪　陽子	単位数	1	時期	1年次 11月～
				時間数	15		

目的：老年期の特徴と高齢社会の動向を知り、老年看護の役割を理解する。

目標：1）加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化を理解する。

2）加齢を伴う高齢者の健康状態を理解する。

3）社会構造の変化、高齢化に伴う医療・保健・福祉対策を理解する。

4）老年看護における倫理的課題を理解する。

回数	学習課題	内　　容	方　法	担当教員
1	老年看護学の概要	老年看護の意義　老年看護の目指すもの 加齢と老化　老年期の理解	講義	旗屋
2	加齢に伴う各種機能の変化1	加齢と身体的側面・精神的側面・社会的側面の変化1	講義	
3	加齢に伴う各種機能の変化2	加齢と身体的側面・精神的側面・社会的側面の変化2	講義	
4	加齢に伴う各種機能の変化3	高齢者体験	演習	
5	高齢社会の動向1	人口の高齢化現象　健康指標・健康状態	講義	三輪
6	高齢社会の動向2	わが国の高齢者医療・保健・福祉対策	講義	
7	老年看護における倫理的課題	高齢者の尊厳と権利擁護 看護職の倫理的責任	講義	
8	試験（1h）			

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	テキスト：　高齢者の健康と障害　老年看護学①　（メディカ出版） 高齢者看護の実践　老年看護学②　（メディカ出版） 国民衛生の動向　（厚生統計協会）
事前準備や受講要件等	
☆担当教員の実務経験	①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②老人看護専門看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	老年看護学各論Ⅰ	担当教員	①旗屋　麻紀 ☆ 外部講師☆ ②三輪　陽子 ③松原亜希子 ④ 二村　洋代	単位数	1	時期	1年次 12月～
				時間数	30		

目的：加齢を伴う高齢者及び健康障害のある高齢者に対する看護ができる能力を養う。

目標：1）日常生活が加齢によってどのような影響を受けているか理解する。

2）加齢に伴う各種機能の変化に対応した日常生活の援助技術の方法を理解する。

3）健康障害のある高齢者に対する看護の方法を理解する。

回数	学習課題	内　　容	方　法	担当教員
1	日常生活の援助1	高齢者の健康とは	講義	三輪
2	日常生活の援助2	日常生活動作能力のアセスメントと援助1	講義	
3	日常生活の援助3	日常生活動作能力のアセスメントと援助2	講義	
4	日常生活の援助4	生活機能障害の程度と残存機能の評価	講義	
5	健康障害のある高齢者の看護1	嚥下障害・失語症・構音障害に対するリハビリテーション	講義	
6	健康障害のある高齢者の看護2	嚥下機能障害と要因・アセスメント・看護	講義	松原
7	健康障害のある高齢者の看護3	日常生活拡大に向けた看護	講義	二村
8	健康障害のある高齢者の看護4	食生活と摂食・栄養状態のアセスメント	講義	旗屋
9	健康障害のある高齢者の看護5	排泄障害に対する看護	講義	
10	健康障害のある高齢者の看護6	転倒・転落　熱傷　誤嚥等の予防と急変・救急時の対応	講義	
11	健康障害のある高齢者の看護7	老年期に特徴的な疾患と看護1	講義	
12	健康障害のある高齢者の看護8	老年期に特徴的な疾患と看護2	講義	
13	健康障害のある高齢者の看護9	老年期に特徴的な疾患と看護3	講義	
14	健康的で尊厳ある暮らしに向けての援助	生活リズムを整える援助と活動	演習	
15	まとめ・試験			

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	テキスト：高齢者の健康と障害　老年看護学①　（メディカ出版） 高齢者看護の実践　老年看護学②　（メディカ出版） 回数5　リハビリテーション看護　（医学書院）
事前準備や受講要件等	
☆担当教員の実務経験	①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②老人看護専門看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ③言語聴覚士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ④摂食・嚥下障害看護認定看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	老年看護学各論Ⅱ	担当教員	①旗屋　麻紀 ☆ 外部講師 ☆ ②曽川　武秀 ③森山　斉美 ④奥村　深雪 ⑤三輪　陽子	単位数	2	時期	2年次 4月～
				時間数	45		

目的：治療を受ける高齢者の看護が理解でき、健康レベルに応じた援助が習得できる。

目標：1）福祉施設・医療施設における看護を理解する。
2）治療、検査時の看護を理解する。
3）高齢者の終末期ケアの特徴を理解する。
4）事例をとおして健康障害のある老年看護に必要な知識・技術の統合ができる。

回数	学習課題	内　　容	方　法	担当教員
1	福祉施設における看護1	高齢者福祉　高齢者とのコミュニケーション	講義	曽川
2	福祉施設における看護2	家族のエンパワーメント　各種在宅サービス	講義	
3	認知症の高齢者と家族への援助1	認知症の種類と評価方法・症状と対応の基本	講義	
4	認知症の高齢者と家族への援助2	認知症高齢者へのかかわり方の基本	講義	奥村
5	認知症の高齢者と家族への援助3	保健福祉施設における看護の実際	講義	森山
6	認知症の高齢者と家族への援助4	認知症高齢者とのコミュニケーション	講義	旗屋
7	医療施設における看護	外来診療時・入院・退院時の看護	講義	三輪
8	薬物療法を受ける高齢者の看護	加齢と薬物動態　服薬過誤の予防と看護	講義	
9	検査を受ける高齢者の看護	高齢者の特徴と検査前後の看護	講義	
10	手術を受ける高齢者の看護	高齢者の特徴と手術前後の看護	講義	
11	終末期の高齢者の看護	高齢者の終末期ケアの特徴　見取りの看護	講義	
12	看護過程の展開1	看護過程展開の流れ　事例紹介	講義	旗屋
13	看護過程の展開2	データーベース及び検査データーの解釈	講義	
14	看護過程の展開3	基本的欲求に基づく情報の分析・解釈1	講義	
15	看護過程の展開4	基本的欲求に基づく情報の分析・解釈2	講義	
16	看護過程の展開5	基本的欲求に基づく情報の分析・解釈3	講義	
17	看護過程の展開6	問題点の抽出・関連図	講義	
18	看護過程の展開7	全体像の把握	講義	
19	看護過程の展開8	看護計画の立案	講義	
20	看護過程の展開9	日常生活援助技術1	演習	
21	看護過程の展開10	日常生活援助技術2　看護援助の評価	演習	
22	看護過程の展開11	看護過程のまとめ	講義	
23	試験（1h）			

評価方法	回数7～11　筆記試験　40点 回数12～22　記録物（看護過程）による評価　60点
参考文献と資料	テキスト： 高齢者の健康と障害　老年看護学①（メディカ出版） 高齢者看護の実践　老年看護学②（メディカ出版）
事前準備や受講要件等	看護過程：自己学習をして授業に臨む。
☆担当教員の実務経験	①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②特養施設長として施設に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ③介護支援専門員として医療機関、施設に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ④認知症看護認定看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ⑤老人看護専門看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	小児看護学概論	担当教員	迫間　直美☆	単位数	1	時期	2年次 4月～
				時間数	15		

目的：成長・発達している小児の特徴と取り巻く環境を理解し、小児看護の理念と役割を習得する。

目標：1）小児の概要を知り、小児看護の理念と変遷を理解する。

2）子どもの人権を尊重した看護を実践するために、必要な知識を習得する。

3）成長・発達している子どもの特徴を理解する。

4）子どもと家族のおかれている状況を知り、家族の機能と役割を理解する。

5）小児保健の動向と小児を保護する法律や保健対策を理解する。

回数	学習課題	内　　容	方　法	担当教員
1	小児看護の特徴と理念	小児看護の対象・目標・役割 小児看護の変遷・小児看護における倫理	講義	迫間
2	子どもの成長・発達1	成長・発達とは・成長・発達の評価 各発達段階における特徴1	講義	
3	子どもの成長・発達2	各発達段階における特徴2	講義	
4	子どもの成長・発達3	各発達段階における特徴3	講義	
5	子どもと家族	子どもにとっての家族とは 家族アセスメント 小児と家族の諸統計	講義	迫間
6	子どもと家族を取り巻く社会1	児童福祉・母子保健・子どもの権利	講義	
7	子どもと家族を取り巻く社会2	医療費支援 学校保健　予防接種	講義	
8	試験（1h）			迫間

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	テキスト：小児臨床看護概論　小児臨床看護総論　小児看護学（1）（医学書院） 看護のための人間発達学　（医学書院）
事前準備や受講要件等	自身または身近な人の母子手帳を準備しておく。
☆担当教員の実務経験	①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	小児看護学各論Ⅰ	担当教員	外部講師 ☆ ①柘植　智史 ②石田　敦士 ③向井　愛子 ④鈴木　敦詞 ⑤谷口　弘晃 ⑥中野　正大	単位数	1	時期	2年次 9月～
				時間数	30		

目的: 小児の発達段階における小児の疾患・健康障害の特徴を理解する。

目標: 1）小児に特徴的な疾患の病態を理解する。

2）小児に特徴的な疾患の検査・治療・処置を理解する。

3）虐待を受けた子どもの特徴とケアを理解する。

回数	学習課題	内　容	方　法	担当教員
1	先天異常	染色体異常・新生児マススクリーニング	講義	柘植
2	新生児	新生児疾患	講義	柘植
3	代謝性疾患	先天性代謝異常症・糖尿病	講義	石田
4	内分泌疾患	下垂体疾患・甲状腺疾患・副甲状腺疾患 副腎疾患・性腺の異常	講義	石田
5	アレルギー性疾患	気管支喘息・食物アレルギー	講義	向井
6	感染症 1	ウィルス感染症	講義	石田
7	感染症 2	細菌感染症	講義	石田
8	呼吸器疾患	肺炎・気管支炎	講義	石田
9	循環器疾患	先天性心疾患・後天性心疾患・川崎病	講義	柘植
10	消化器疾患	唇裂・口蓋裂・食道閉鎖症・幽門狭窄症・鎖肛 胆道閉鎖症・腸重積・急性乳幼児下痢症	講義	谷口
11	血液・造血器疾患 悪性新生物	再生不良性貧血・血友病 白血病・脳腫瘍	講義	谷口
12	腎泌尿器疾患	ネフローゼ症候群	講義	谷口
13	神経疾患	脳性麻痺	講義	谷口
14	精神疾患 不登校	発達障害・神経症的障害・行動障害 不登校・不登校の子どもをもつ親の理解	講義	中野
15	虐待	虐待の定義・分類・発生要因 虐待を受けた子どもへのケア	講義	中野

評価方法	筆記試験(1時間別日に実施します)
参考文献と資料	テキスト: 回数:1～13　小児臨床看護各論　小児看護学(2)（医学書院） 回数14～15　小児看護学概論　小児臨床看護総論　小児看護学(1)（医学書院） 小児臨床看護各論　小児看護学(2)（医学書院）
事前準備や受講要件等	①～⑥医師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

担当教員の＊印は実務経験のある教員

授業科目	小児看護学各論Ⅱ	担当教員	①迫間直美☆ 外部講師☆ ②志岐　祥子	単位数	1	時期	2年次 9月～
				時間数	30		

目的：小児の発達段階に応じた看護及び健康障害を持つ小児とその家族に対する看護ができる能力を養う。

目標：1）小児の成長と発達過程を理解し、健全な成長と発達を促進するための援助を学ぶ。

2）病気・健康障害をもつ小児や家族の看護を理解する。

3）外来受診・入院を必要とする小児と家族の看護を理解する。

回数	学習課題	内　　容	方　法	担当教員
1	小児の栄養	栄養・母乳栄養・人工栄養・離乳食	講義	迫間
2	健康な小児の日常生活1	基本的生活習慣・遊び・事故防止	講義	
3	健康な小児の日常生活2	基本的生活習慣・遊び・事故防止	講義	
4	健康な小児の日常生活3	基本的生活習慣・遊び・事故防止	講義	
5	病気・障害をもつ子どもと家族の看護1	疾病・障害が子どもと家族に与える影響	講義	
6	病気・障害をもつ子どもと家族の看護2	子どもの健康問題と看護	講義	
7	子どもの力を引き出す援助　1	インフォームドアセント　プレパレーション	講義	
8	子どもの力を引き出す援助　2	インフォームドアセント　プレパレーション	講義	
9	外来における子どもと家族の看護	外来看護の特徴　　退院への支援	講義	
10	入院中の子どもと家族の看護	入院環境と看護の役割 入院生活への適応を助ける看護	講義	
11	子どもにおける疾病の経過と看護　1	急性期・慢性期にある子どもと家族の看護	講義	
12	子どもにおける疾病の経過と看護　2	周手術期の子どもと家族の看護 終末期にある子どもと家族の看護	講義	
13	子どもの状況に特徴づけられる看護	障害をもつ子どもと家族の看護 災害時の子どもと家族の看護	講義	
14	新生児の看護	低出生体重児の看護・ファミリーセンタードケア	講義	志岐
15	まとめ・試験			迫間

評価方法	回数1～13　グループワークなど総合評価　　15点 回数1～14　筆記試験　　85点
参考文献と資料	テキスト： 回数1～13　小児看護学概論　小児臨床看護総論　小児看護学(1)(医学書院) 回数14　　小児臨床看護各論　小児看護学（2）　(医学書院)
事前準備や受講要件等	
☆担当教員の実務経験	①②看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	小児看護学各論Ⅲ	担当教員	水野　奈帆☆	単位数	1	時期	2年次 11月～
				時間数	30		

目的：病気・健康障害を持つ小児とその家族の諸問題を捉え、問題解決の方法に基づいた援助ができる能力を養う。

目標：1）小児が発症する症状を理解し、援助方法を理解する。
2）小児看護に必要な技術を理解する。
3）健康障害や入院が小児・家族に及ぼす影響を理解し、看護展開ができる。

回数	学習課題	内　容	方　法	担当教員
1	看護過程　1	事例紹介及び情報の分類	講義	水野
2	看護過程　2	病態関連図	講義	
3	看護過程　3	計画立案（検温・観察）	講義	
4	看護過程　4	対象に応じた援助　1（バイタルサイン）	演習	
5	看護過程　5	対象に応じた援助　2（バイタルサイン）	演習	
6	看護過程　6	援助の振り返り	講義	
7	看護過程　7	全体像1	講義	
8	看護過程　8	全体像2（情報の分析・解釈）	講義	
9	看護過程　9	計画立案（清潔・学習・遊び）1	講義	
10	看護過程　10	計画立案（清潔・学習・遊び）2	講義	
11	看護過程　11	対象に応じた援助　1（清潔・学習・遊び）	演習	
12	看護過程　12	対象に応じた援助　2（清潔・学習・遊び）	演習	
13	看護過程　13	援助の振り返り	講義	
14	看護過程　14	小児看護過程のまとめ	講義	
15	まとめ・試験			

評価方法	筆記試験　40点 記録物（看護過程）による評価　60点
参考文献と資料	テキスト： 小児看護学概論　小児臨床看護総論　小児看護学（1）（医学書院） 小児臨床看護各論　小児看護学（2）（医学書院） 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践（ヌーヴェルヒロカワ） ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト（ヌーヴェルヒロカワ）
事前準備や受講要件等	看護過程：自己学習をして授業に臨む。

授業科目	母性看護学総論	担当教員	①池戸　梨香☆ 外部講師☆ ②横井　真理子 ③山田　　成美	単位数	1	時期	2年次 4月～
				時間数	30		

目的：母性看護の意義と役割及び対象を理解し、女性のライフサイクル各期における看護を理解する。

目標：1）母性看護の概念を理解し、母性・父性について理解する。
2）母子関係と家族発達について理解できる。
3）女性のライフサイクルとその健康問題と発達課題について理解する。
4）女性の生涯にわたる健康支援（ヘルスプロモーション）について理解する。
5）母性看護の対象を取り巻く社会の動向と法律・施策について理解する。
6）母子保健の現状と支援について理解する。
7）女性の健康を支援するための考え方と看護支援の方法(リプロダクティブヘルス・ケア)を理解する。

回数	学習課題	内　　容	方　　法	担当教員
1	母性看護学の意義と役割	母性看護学の学習内容 母性看護学とは・母性看護の在り方	講義	池戸
2	母子関係と家族発達	愛着・母子相互作用 家族機能　家族の発達課題	講義	
3	女性・家族のライフサイクル	女性のライフサイクル 現代女性のライフサイクル	講義	
4	セクシュアリティ	人間の性　セクシャリティの発達と課題 母性の発達・成熟・継承 リプロダクティブヘルツ／ライツ ジェンダー	講義	
5	女性の生涯にわたる健康教育	ヘルスプロモーション 健康教育	講義	
6	母性看護の歴史的変遷と現状	母性看護の変遷と課題 母子保健統計から見た動向	講義	
7	母性看護の対象を取り巻く社会	母性看護に関する組織と法律	講義	
8	母性看護における倫理	生命倫理と看護倫理 看護における倫理的意思決定	講義	
9	リプロダクティブヘルス・ケア	在日外国人の母子保健 喫煙と女性の健康	講義	
10	ライフステージ各期における看護(思春期)	思春期の健康と看護 月経異常	講義	横井
11	ライフステージ各期における看護(思春期)	性暴力・児童虐待 月経・妊娠、性教育、性感染症	講義	
12	ライフステージ各期における看護(性成熟期)	性成熟期の健康と看護 月経困難症・女性特有の癌	講義	山田
13	ライフステージ各期における看護(更年期)	更年期の健康と看護 更年期症状・尿失禁	講義	横井
14	ライフステージ各期における看護(老年期)	老年期の健康と看護 子宮脱・骨粗鬆症	講義	
15	まとめ・試験			池戸

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	テキスト：母性看護学概論　母性看護学(1)　　(医学書院)
事前準備や受講要件等	母子手帳を準備すること
☆担当教員の実務経験	①助産師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②助産師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ③保健師・助産師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	母性看護学各論Ⅰ	担当教員	①池戸梨香☆ 外部講師☆ ②松川　哲 ③中村　浩美 ④横井真理子 ⑤山田　成美	単位数	2	時期	2年次 9月～
				時間数	45		

目的：周産期にある妊娠・分娩・産褥期の一連の過程から新生児に至るまでの正常な経過と看護について理解する。

目標：１）妊娠期の経過と異常、看護について理解する。
２）分娩期の経過と異常、看護について理解する。
３）産褥期の経過と異常、看護について理解する。
４）新生児の経過と異常、看護について理解する。

回数	学習課題	内　容	方　法	担当教員
1	妊娠期の経過１	妊娠の生理	講義	松川
2	妊娠期の経過２	胎児の発育とその生理	講義	
3	妊娠期の経過３	正常経過と健康診査	講義	
4	分娩期の経過１	分娩の要素/経過	講義	
5	分娩期の経過２	胎児に及ぼす影響　産婦と胎児のアセスメント	講義	
6	産褥期の経過 新生児期の経過	産褥経過とその診断 新生児の生理,健康状態のアセスメント	講義	
7	妊娠期の異常１	異常妊娠１	講義	中村
8	妊娠期の異常２	異常妊娠２	講義	
9	分娩期の異常 産褥期の異常	異常分娩 産褥の異常と新生児の異常	講義	
10	不妊治療 着床前～出生前診断	原因・検査・治療 診断方法・治療	講義	
11	妊娠期の看護１	身体的・心理・社会的特性	講義	横井
12	妊娠期の看護２	妊婦の健康診査と胎児の発育	講義	
13	妊娠期の看護３	妊娠に伴うマイナートラブル・日常生活指導	講義	
14	分娩期の看護１	身体的・心理・社会的特性	講義	
15	分娩期の看護２	産婦の看護	講義	
16	産褥期の看護１	身体的・心理・社会的特性	講義	池戸
17	産褥期の看護２	産褥経過のアセスメント(退行性変化・進行性変化)	講義	
18	産褥期の看護３	褥婦の看護とセルフケアへの援助	講義	
19	新生児の看護	新生児期の特徴 新生児の健康状態のアセスメントと看護	講義	
20	異常の看護１	ハイリスク妊婦の看護	講義	山田
21	異常の看護２	異常のある産婦の看護、分娩時異常出血のある産婦の看護 低出生体重児の看護	講義	
22	異常の看護３	異常のある褥婦の看護 異常分娩時（帝王切開術）の産婦の看護	講義	
23	試験（1h）			池戸

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	テキスト： 回数1～22　母性看護学各論　母性看護学(2)　(医学書院) 回数11～22　写真でわかる母性看護技術アドバンス　(インターメディカ) 多治見病院母親学級テキスト「あゆみ」
事前準備や受講要件等	
☆担当教員の実務経験	①④助産師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②③医師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ⑤保健師・助産師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	母性看護学各論Ⅱ	担当教員	池戸　梨香☆	単位数	1	時期	2年次 1月～
				時間数	30		

目的：周産期にある妊娠・分娩・産褥期の一連の過程から新生児に至るまでの異常と看護を理解する。

目標：1）事例の展開より、褥婦と新生児の健康状態をアセスメントし、セルフケアへの援助を理解する。

2）妊娠期から新生児期の観察技術を習得する。

回数	学習課題	内　容	方　法	担当教員
1	看護過程の展開１	事例紹介　妊娠の援助計画	講義	池戸
2	看護過程の展開２	妊婦の観察（腹囲・子宮底測定、レオポルド触診法、胎児心拍数測定）	演習	
3	看護過程の展開３	褥婦の援助計画（観察計画）	講義	
4	看護過程の展開４	褥婦の観察（子宮底・乳房の観察）	演習	
5	看護過程の展開５	褥婦に関するアセスメント	講義	
6	看護過程の展開６	新生児の援助計画　（観察計画）	講義	
7	看護過程の展開７	新生児の観察と生理的反射	演習	
8	看護過程の展開８	授乳支援（乳頭マッサージ、授乳姿勢）		
9	看護過程の展開９	新生児に関するアセスメント	講義	
10	看護過程の展開10	母子相互作用に関するアセスメント	講義	
11	看護過程の展開11	産褥期・新生児期のアセスメント（日齢に応じた変化）	講義	
12	看護過程の展開12	新生児の観察　沐浴	演習	
13	看護過程の展開13			
14	看護過程の展開14	帝王切開術後の特徴	講義	
15	まとめと試験			

評価方法	筆記試験　30点 記録物（看護過程）による評価　70点
参考文献と資料	テキスト：　母性看護学各論　母性看護学（２）（医学書院） 多治見病院母親学級テキスト「あゆみ」 写真でわかる母性看護技術アドバンス　（インターメディカ）
事前準備や受講要件等	看護過程：アセスメントに必要となる自己学習をして授業に臨む。
☆担当教員の実務経験	助産師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	精神看護学総論	担当教員	①横田千代美☆ 外部講師☆ ②植松　勝子	単位数	1	時期	2年次 5月～
				時間数	30		

目的：精神看護の対象および特徴を理解し、人間の精神の健康な状態を成長発達と社会適応の面から捉えることができる。

目標：１）精神看護の目的と意義を理解する。
２）精神の健康問題を持つ対象を理解する。
３）精神看護における看護者の役割と機能について理解する。
４）ライフサイクルにおける心の発達と健康について理解する。
５）精神の健康に影響をもたらす環境的要因を踏まえ、援助に必要な基礎的知識を学ぶ。

回数	学習課題	内　容	方　法	担当教員
1	精神の健康	精神看護学とその課題 精神の健康の概念	講義	横田
2	精神看護の基本概念１	我が国の精神保健医療福祉対策 精神保健福祉相談員	講義	
3	精神看護の基本概念２	権利擁護と倫理的側面	講義	
4	精神看護の基本概念３	全体としての家族 患者家族の理解	講義	
5	精神看護の基本概念４	ケアの原則・ケアの方法 コミュニケーション技法	講義	
6	精神看護の基本概念５	ケアの人間関係	講義	
7	リエゾン精神看護	看護における感情労働とメンタルヘルス	講義	
8	精神保健医療福祉の歴史と法制度	精神保健医療福祉の歴史と看護 精神保健福祉の法制度	講義	植松
9	精神の発達と危機	心の諸活動と人格の発達 危機介入とストレス理論	講義	
10	発達段階と精神の健康１	乳児期・幼児期・学童期・思春期・成人期・老年期	講義	
11	発達段階と精神の健康２	生物学的側面・心理学的側面・社会的側面	講義	
12	精神障害者のリハビリテーション１	社会復帰・社会参加の基本 指示的面接 ホリスティックケア、リラクセーション	講義	
13	精神障害者のリハビリテーション２	保健医療に関する資源の活用と調整	講義	
14	精神障害者のリハビリテーション３	福祉に関する資源の活用と調整 患者・家族・保健医療福祉の専門職間の連携促進	講義	
15	まとめ・試験			横田

評価方法	筆記試験　95点 レポート　5点
参考文献と資料	テキスト：精神看護の基礎　精神看護学（１）　（医学書院） 精神看護の展開　精神看護学（２）　（医学書院）
事前準備や受講要件等	「精神看護の基本概念5」の授業前にレポート提出。 タイトル「私は○○な人間です」　詳細は、授業時間内に説明。
☆担当教員の実務経験	①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②保健師・精神保健福祉士として医療機関、行政機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	精神看護学各論Ⅰ	担当教員	①横田千代美☆ 外部講師☆ ②高田　知二 ③堀　知穂 ④加藤晴美	単位数	2	時期	2年次 9月～
				時間数	45		

目的：心の健康問題を持つ対象及び家族への援助に必要な知識・技術を習得する。

目標：1）主な精神疾患と看護を理解する。

2）精神症状と病態像を理解し、問題状況の把握が出来る能力を養う。

3）主な精神科治療および看護を理解する。

4）自己の感情や行動特性に気づき、自己洞察できる。

回数	学習課題	内容	方法	担当教員
1	精神障害の基本的知識1	疾患の分類	講義	高田
2	精神障害の基本的知識2	主な精神疾患1	講義	
3	精神障害の基本的知識3	主な精神疾患2	講義	
4	精神障害の基本的知識4	精神症状と病態像の理解1	講義	
5	精神障害の基本的知識5	精神症状と病態像の理解2	講義	
6	精神障害の基本的知識6	主な精神科治療1	講義	
7	精神障害の基本的知識7	主な精神科治療2	講義	
8	安全な治療環境の提供と人権擁護1	入院の意味と治療的環境・精神科病棟の安全管理	講義	横田
9	安全な治療環境の提供と人権擁護2	緊急事態への対処・災害時の安全確保	講義	
10	安全な治療環境の提供と人権擁護3	生きる力と強さに着目した援助	講義	
11	看護援助技法1	精神症状のアセスメントと疾患を抱える人の看護 不安状態・神経症性障害他	講義	堀
12	看護援助技法2	精神症状のアセスメントと疾患を抱える人の看護 知覚の障害状態・思考内容・思路の障害	講義	
13	看護援助技法3	精神症状のアセスメントと疾患を抱える人の看護 気分障害・意欲の障害他	講義	
14	看護援助技法4	精神症状のアセスメントと疾患を抱える人の看護 急性期における看護ケアの実際	講義	加藤
15	看護援助技法5	精神症状のアセスメントと疾患を抱える人の看護 身体疾患を持ちながら退院に向けての支援とその実際	講義	
16	看護援助技法6	精神症状のアセスメントと疾患を抱える人の看護 依存症他	講義	横田
17	看護援助技法7	治療的アプローチと看護援助 薬物療法と看護	講義	
18	看護援助技法8	治療的アプローチと看護援助 精神科の治療と身体ケア（セルフケアの援助）	講義	
19	精神保健と医療福祉サービスの実際	地域包括ケアシステム 地域におけるケアの実際	講義	
20	精神障害者の理解1	妄想・幻覚のある人の生活1	講義	
21	精神障害者の理解2	妄想・幻覚のある人の生活2	講義	
22	プロセスレコードの展開	プロセスレコードによる看護場面の再構成	講義	
23	試験（1h）			

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	テキスト：精神看護の基礎　精神看護学（1）　（医学書院） 精神看護の展開　精神看護学（2）　（医学書院）
☆担当教員の実務経験	①③④看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②医師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	精神看護学各論Ⅱ	担当教員	横田千代美☆	単位数	1	時期	3年次 4月～
				時間数	15		

目的：精神保健看護の展開ができる。

目標：1）発達課題とその達成度・発達の危機について考える。

2）薬物療法が患者に与える影響を理解する。

3）思考過程の障害が対人関係能力にどのような影響をもたらすか理解する。

4）精神症状による囚われから現実世界へ引き戻すための看護ケアを考える。

5）事例の展開をとおして、病態・症状・日常生活動作への影響およびそれぞれの関連性を理解する。

回数	学習課題	内容	方法	担当教員
1	看護過程の展開1	事例紹介及び情報の分類 データベースおよび検査データの解釈	講義	横田
2	看護過程の展開2	基本的欲求に基づく情報の分析・解釈1	講義	
3	看護過程の展開3	基本的欲求に基づく情報の分析・解釈2	講義	
4	看護過程の展開4	基本的欲求に基づく情報の分析・解釈3	講義	
5	看護過程の展開5	問題抽出及び関連図ついて	講義	
6	看護過程の展開6	看護計画の立案	講義	
7	看護過程の展開7	グループワーク・発表	演習 講義	
8	看護過程の展開8 （1h）	まとめ		

評価方法	記録物（看護過程）による評価
参考文献と資料	テキスト：精神看護の基礎　精神看護学（1）　(医学書院) 精神看護の展開　精神看護学（2）　(医学書院)
事前準備や受講要件等	自己学習をして授業に臨む。
☆担当教員の実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	看護管理	担当教員	①中川満紀子☆ 外部講師☆ ②若尾真弓 ③永田陽子	単位数	1	時期	3年次 7月～
				時間数	15		

目的：看護をマネジメントできる基礎能力を養う。

目標：1）ケアのマネジメントを理解する。

2）看護サービスのマネジメントを理解する。

3）マネジメントに必要な知識と技術を理解する。

4）看護専門職としての職業倫理（責任と任務）を理解する。

回数	学習課題	内　　容	方　法	担当教員
1	看護管理の基本	社会の変化と看護職の役割　協働 看護マネジメントとは	講義	中川
2	看護サービスの マネジメント1	組織で取り組む看護活動	講義	若尾
3	看護サービスの マネジメント2	看護の質向上のための取り組み	講義	
4	看護サービスの マネジメント3	看護と経営　業務のマネジメント クリニカルラダーの実際	講義	
5	看護現場に影響を与える制度と法律	看護と法令　看護と行政組織 看護と専門機関・職能団体 保健医療福祉政策の動向	講義	永田
6	看護専門職としての マネジメント	セルフマネジメント 看護専門職とキャリア	講義	中川
7	看護職の倫理的行動	看護職の倫理綱領 看護の場で生じやすい倫理上の問題	講義	
8	試験（1h）			

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	テキスト：　看護管理　看護の統合と実践①（ﾒﾃﾞｨｶ出版） 看護学概論　基礎看護学①（ﾒﾃﾞｨｶ出版）
事前準備や受講要件等	
☆担当教員の実務経験	①②看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ③看護師として医療機関、行政機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	安全・感染管理	担当教員	①中川満紀子☆ 外部講師☆ ②田口智子 ③佐藤哲男	単位数	1	時期	3年次 5月～
				時間数	30		

目的：専門領域での知識･技術をもち、看護実践できる能力を養う。

目標：1）医療安全の基本的な考え方と事故防止について理解する。

2）リスクマネジメントの実際を理解する。

3）科学的根拠に基づいた感染防止の技術を学ぶ。

4）感染管理の実際を理解する。

回数	学習課題	内　　容	方　法	担当教員
1	医療安全の 基本的考え方	看護事故防止の考え方	講義	中川
2	事故防止対策1	KYTとは　療養上の世話の事故防止	講義	
3	事故防止対策2	患者に投与する業務における事故防止	講義	
4	事故防止対策3	継続中の危険な医療行為の観察・管理における事故防止	講義	
5	医療安全とｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	事故防止のためのコミュニケーション	講義	
6	組織的な安全管理	組織としての安全対策・法的責任 コンフリクトマネジメント	講義	
7	リスクマネジメントの 実際1	リスクの把握・分析・対応・評価	講義	田口
8	リスクマネジメントの 実際2	現場におけるリスクマネジメントの実際 心理的安全性	講義	
9	リスクマネジメントの 実際3	標準予防策と感染経路別予防策 CDCガイドライン 処置別感染予防策	講義	佐藤
10	在宅における感染 予防策	在宅医療処置の感染予防策	講義	
11	職業感染予防策	職員を守る感染防止策 ワクチン接種	講義	
12	新興感染症とその対策	コロナ感染症・HIV・SARS・輸入感染	講義	
13	感染管理の実際1	院内サーベイランスの実際 感染発生データの収集・分析・評価・実践	講義	
14	感染管理の実際2	感染管理看護師の役割	講義	
15	まとめ・試験			中川

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	テキスト： 回数1～8　医療安全　看護の統合と実践（2）　(医学書院) 回数9～14　アレルギー　膠原病　感染症　成人看護学（11）(医学書院)
事前準備や受講要件等	
☆担当教員の実務経験	①②看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ③感染管理認定看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	災害看護・国際看護	担当教員	外部講師☆ ①森田　理 ②藤垣　恵	単位数	1	時期	3年次 10月～
				時間数	15		

目的：災害看護における基礎的能力を身に付けるとともに、国際看護の必要性が理解できる。

目標：1）災害の概念、災害時の健康障害について理解する。

2）災害急性期の看護活動の実際を理解する。

3）トリアージの基本的知識と方法について理解する。

4）国際看護の現状や動向、看護活動の実際を知る。

回数	学習課題	内容	方法	担当教員
1	災害・災害看護に関する知識	災害看護の基礎知識 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護 被災者特性に応じた災害看護の展開 災害とこころのケア	講義	森田
2	看護の役割と看護活動	関係機関、他職種との連携 在宅・地域における連携 災害ボランティア 避難所における看護ケア	講義	
3	災害時に必要な技術の実際1	救急技術(応急処置、循環管理、外傷治療、搬送)の実際 災害時に多い傷病名と応急処置	講義	
4	災害時に必要な技術の実際2	心肺蘇生の実際	演習	
5	災害時に必要な技術の実際3	トリアージの実際	演習	
6	国際看護1	看護とグローバリゼーション 国際救援活動の基本理念	講義	藤垣
7	国際看護2	国際救援活動の実際とマネジメント	講義	
8	試験（1h）			森田

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	テキスト：災害看護学・国際看護学　看護の統合と実践（3）（医学書院）
事前準備や受講要件等	
☆担当教員の実務経験	①災害看護活動推進員、看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②助産師として医療機関に勤務し、日本赤十字社、JICA, リベリア母子保健人材育成事業に参加した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	緩和ケア	担当教員	外部講師☆ ①伊藤　浩明 ②山中　洋美 ③渡邊　理江	単位数	1	時期	3年次 10月～
				時間数	15		

目的：緩和ケアを理解し、必要な知識・技術・態度を学ぶ。

目標：1）生と死を考える。

2）緩和ケアの目的・意義を学ぶ。

3）緩和ケアとしての身体的・精神的・社会的・スピリチュアル・家族ケアの実際を理解する。

回数	学習課題	内　　容	方　法	担当教員
1	緩和ケアとは	緩和ケアとは何か 緩和ケアの歴史・現状　疼痛緩和 チームアプローチ	講義	伊藤
2	死を考える	死を考える 死に直面した人間の現実、死の看取りと医療者	講義	山中
3	緩和ケアの進め方 身体的ケア	癌性疼痛、全身倦怠感、呼吸困難等	講義	
4	精神的ケア	不安・恐怖、怒り、抑うつ、せん妄等	講義	
5	社会的ケア・家族ケア	信頼関係の確立と問題の認知 グリーフケアの方法	講義	
6	緩和ケアの実際1	スピリチュアルケア	講義	渡邊
7	緩和ケアの実際2	スピリチュアルケア	講義	
8	試験（1h）			山中

評価方法	回数2～5　筆記試験
参考文献と資料	テキスト：緩和ケア　（医学書院） 生と死の看護論　（ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社）
事前準備や受講要件等	
☆担当教員の実務経験	①医師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②緩和ケア認定看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ③看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	統合技術演習	担当教員	旗屋　麻紀☆	単位数	1	時期	3年次 4月～
				時間数	30		

目的：臨床実践に近い状況において、基礎的な知識と技術が統合できる。

目標：1）看護実践における研究の意義・目的を理解し看護研究のプロセスを学ぶ。

2）事例を通して、自己の知識・技術を振り返ることができる。

3）複数の模擬患者がもつ看護上の問題を明確にし、根拠に基づいた援助の優先度が分かる。

回数	学習課題	内容	方法	担当教員
1	看護研究1	看護研究の意義　看護研究の種類	講義	旗屋
2	看護研究2	研究疑問（リサーチクエスチョン） 看護研究における倫理	講義	
3	看護研究3	文献クリティーク 引用・参考文献の記載方法	講義	
4	看護研究4	ケースレポートの進め方 論文の記載方法	講義	
5	ケースレポート1	原著論文の作成1	講義	
6	ケースレポート2	原著論文の作成2	講義	
7	ケースレポート3	原著論文の作成3	講義	
8	ケースレポート4	発表原稿の作成 ケースレポート発表準備・リハーサル	講義	
9	ケースレポート5	ケースレポート発表1	講義	
10	ケースレポート6	ケースレポート発表2 ケースレポートから学んだこと	講義	
11	複数患者への看護1	複数受け持ち患者の事例展開1	講義	
12	複数患者への看護2	複数受け持ち患者の事例展開2	講義	
13	複数患者への看護3	複数受け持ち患者の事例展開3	講義	
14	複数患者への看護4	引継ぎ体験	演習	
15	複数患者への看護5	多重課題・時間切迫事例の展開	演習	

評価方法	回数1～4　記録物（ワーク用紙）	20点
	回数5～10　記録物（ワーク用紙）・発表・態度	45点
	回数11～15　グループワークなどを総合的に評価、レポート	35点
参考文献と資料	テキスト： 回数 1～10　看護研究サポートブック　（ﾒﾃﾞｨｶ出版） 回数11～15　看護学概論　基礎看護学①　（ﾒﾃﾞｨｶ出版）	
事前準備や受講要件等		